

エフピコレポート2017

FP Corporation Report 2017



株式会社 エフピコ



◆ **企業プロフィール** 3

- エフピコ製品ラインナップ
- TOP MESSAGE 「エフピコの約束」
- 組織体制
- エフピコグループの生産、物流、販売、リサイクルのネットワーク
- 組織マネジメント
- 主要な経営指標

◆ **製品開発** 11

- TOP MESSAGE 「創り続ける使命感」
- エフピコが開発する高付加価値製品

◆ **食品容器製造** 15

- 高度に精密化された生産計画
- 全国を網羅する生産体制
- 生産工場におけるロボット化の推進

◆ **物流** 19

- 全国を網羅する倉庫業と運送業のネットワーク
- エフピコの運送事業の特徴
- エフピコの倉庫事業の特徴

◆ **販売** 23

- 提案型セールス活動
- 「エフピコフェア」の開催



◆ リサイクル 27	◆ 環境への取組み 41
リサイクル事業の成果	エフピコ・エコアクション 50
循環型社会づくりに向けたエフピコの歩み	5つのワーキンググループによる取組み
リサイクル工程	
リサイクル工場の見学	
◆ ダイバーシティ経営 35	◆ 社会とのかかわり 45
エフピコの障がい者雇用	消費者とのかかわり
フロアホッケー活動	地域とのかかわり
特集：エフピコ女性社員座談会	株主とのかかわり
	第三者によるコメント
	財務データ 49
	エフピコのあゆみ 52
	編集後記 54



◆◆◆◆◆ 企業プロフィール ◆◆◆◆◆



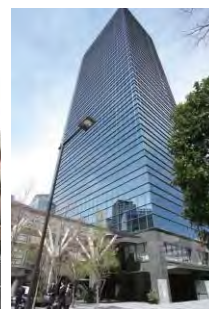
循環型事業で
人、社会、環境をつなぐ

◆◆◆◆◆ 会社概要 ◆◆◆◆◆

商号 株式会社エフピコ
設立 1962年(昭和37年) 7月
代表者 代表取締役社長 佐藤 守正
資本金 131億5,000万円
社員数 807名(エフピコグループ:4,513名)
事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易
食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売
福山本社 〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目13番15号
TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911
東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
新宿オークタワー(総合受付36階)
TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811



福山本社(広島県福山市)



東京本社(東京都新宿区)



ロゴに使用しているFPは創業当時の社名である「福山パール紙工」に由来しています。

◆ エフピコ製品ラインナップ

多種多様なライフスタイルと食生活、そしてお客様であるスーパーマーケットなど小売店のニーズに対応する1万2千種類におよぶ製品を製造しています。

発泡製品

ポリスチレンを材料とした製品類。精肉などは発泡トレーの上に載せ、ラップをして販売するスタイルが一般的です。寿司箱や弁当箱などの製品としても馴染みです。



精肉

精肉用のトレーは最もスタンダードなエフピコ製品のひとつ。売り場のさまざまなニーズに合わせることでできる汎用性の高い製品です。



寿司

一人前から数人前まで、寿司用の容器はエフピコの定番製品です。特別な日を演出する色鮮やかな容器も豊富です。



弁当

さまざまな素材を使い、盛り付けし易いよう、また食べ易いように仕切りを入れた容器です。軽さと強度を兼ね備えているほか、見た目の楽しさも演出しています。

透明容器

現在ではほとんど全ての食品の包装容器として使用されています。透明で中身が見えるため、消費者の方々に安全・安心を提供できます。



鮮魚

鮮魚にも広く使用されています。付加価値を付けた刺身などには蓋付きの透明容器も用いられ、商品の劣化を防ぐ役目も果たしています。



青果物

主に野菜など採りたてのみずみずしさをそのままに販売するための容器です。お客様が新鮮さを確認できるよう、全体に透明素材を使用しています。



菓子

団子、まんじゅう、ようかんなどの和菓子やドライフルーツなどのスナック用として使われています。商品の形に合わせた形状とすることで、型崩れを防いでいます。

高機能製品

耐熱、耐寒、耐油、耐酸、高い透明度、多機能利用など、高い機能性に特化した製品も製造しています。



電子レンジ対応

コンビニなどでも馴染みの深い、そのまま電子レンジで温めることができる容器も多種あります。レンジアップ後、持っても熱くない断熱性のある素材も使用しています。



中皿付き容器

中皿を仕切りとして蓋を付け、おかず(上)とご飯や麺(下)などのセット販売に適した製品。丼ものや麺メニューなどに最適です。



スクリューキャップ容器

食品に限らず、さまざまな小物を入れるための多目的容器として活用されています。透明で密閉性が高いため、その用途は多岐にわたっています。

その他

たまごパックや袋形状のものなど、食品流通において必要とされる容器やパッケージの多くを製造・販売しています。



紙容器

紙を使用した蓋付きの弁当容器やテイクアウトフード用の容器です。和の雰囲気を出す時など、食シーンに応じてお使いいただけます。



鶏卵

透明たまごパックの生産も行っています。再生PETを利用したリサイクル製品です。



フィルム製品

野菜、くだもの、生花などの包装用フィルムです。商品の鮮度を確認でき、商品の形状にかかわらず包装できる利便性が重宝されています。

TOP
MESSAGE

エフピコの約束

「最も高品質な製品を、競争力のある価格で、必要な時に確実にお届けする」という約束を守るため、私たちは日々努力を重ねています。

代表取締役社長
佐藤 守正



社会の高齢化、少子化が進む今日、人々の食生活のスタイルも社会構造の変化に伴ってその形を変えています。一人や二人などの少人数世帯が増えており、食品の消費形態も惣菜や弁当などの中食スタイルが増えています。しかし、どれほど中食での食事が増えても、作り立て、出来立ての美味しさを求める気持ちがなくなることはありません。そうした時代のニーズに応える製品を私たちエフピコは提供しています。消費者の方々が求めるものを安定して生産し、それが必要とされる時に確実にお届けすることをエフピコは約束いたします。

リサイクル



① 高付加価値製品を安定してお客様に提供します。

製品開発部門のみならず販売や製造など他部門からの情報や要望を取り入れ、アイデアとノウハウを蓄積することで持続的に高付加価値製品を開発しています。また部門ごとに蓄積したノウハウと経験値を一元管理することにより効率化された生産と物流の体制で、安定して製品をお客様に提供します。

② 企業としての社会的責務を事業展開と同時進行で遂行します。

消費者の方々が一度使用した食品容器（発泡トレー・透明容器）を小売業者、包材問屋など商品流通にかかわる方々や自治体の協力を得て再び製品へと生まれ変わらせる高度な水平リサイクルを実現しています。またその過程において障がいのある従業員の適性を活用し、雇用機会の増大にも繋げています。「モノを作ること＝社会貢献」を実践し続けています。



社会全体の協力を得て
実現する資源の循環

製造

障がい者
雇用

《エフピコの事業スタイル》

高付加価値製品を安定して提供し続けることが、同時に企業市民としての社会的責務を果たすことにもなっています。

使用済みトレーをリサイクルして製造・販売している「エコトレー」



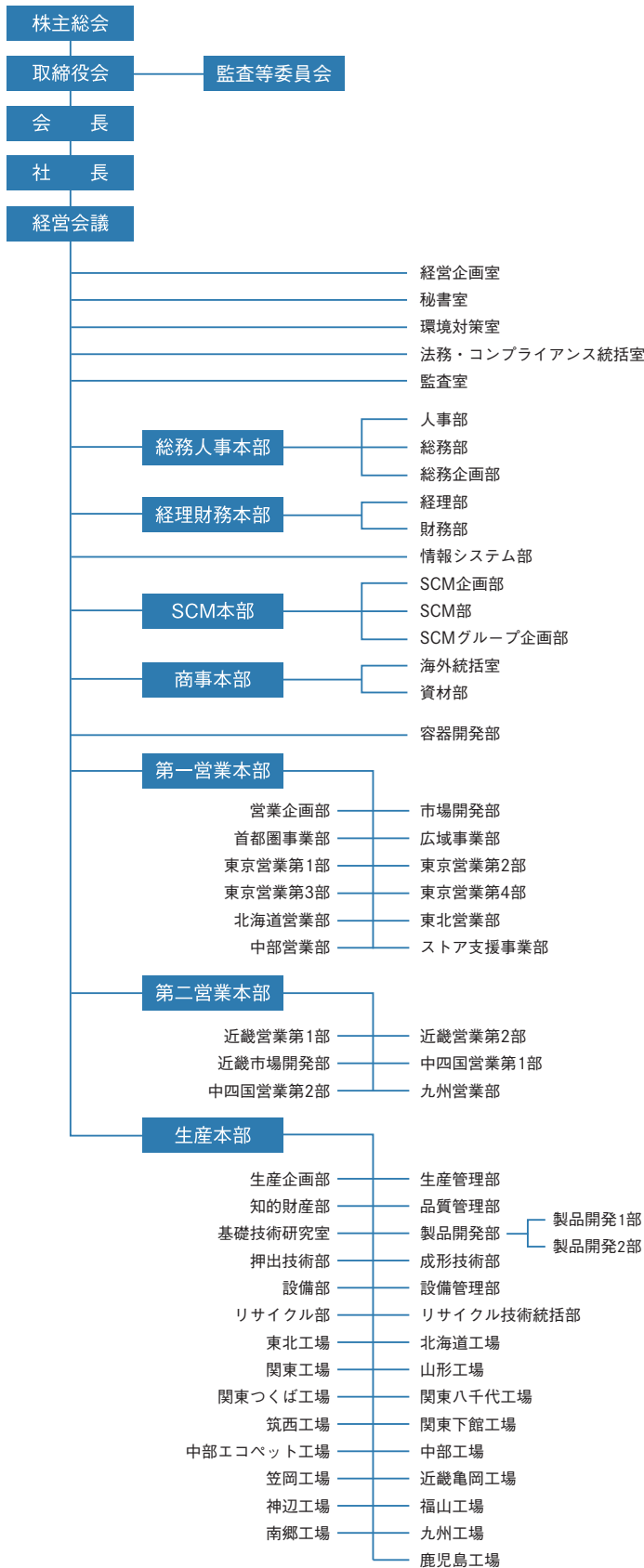
物流

販売

アイデアとノウハウの蓄積による事業発展の循環

◆ 組織体制

※2017年4月1日現在



福山本社



東京本社



中部エコベット工場

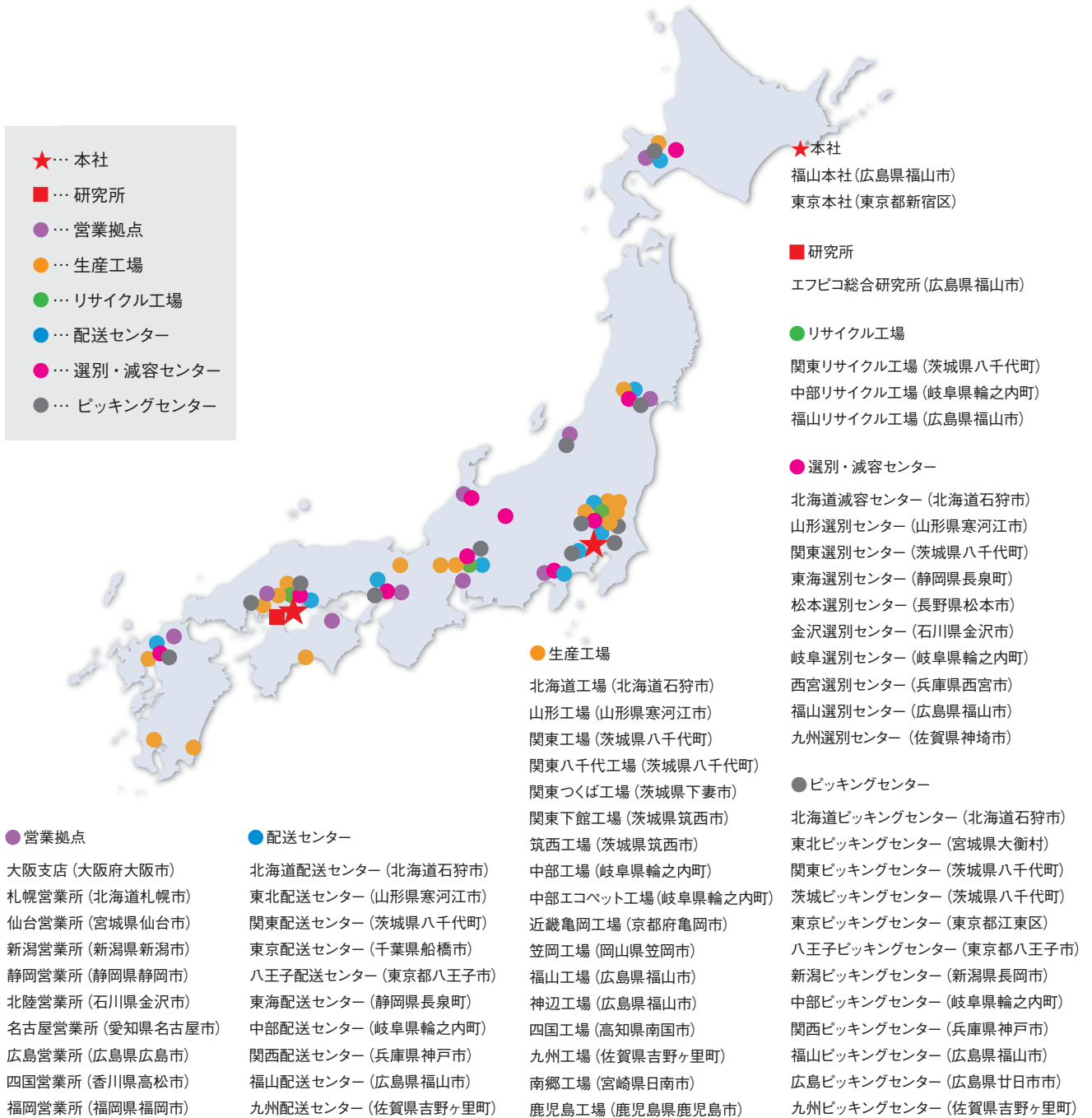


八王子配送センター



福山リサイクル工場

◆ エフピコグループの生産、物流、販売、リサイクルのネットワーク



エフピコグループ会社

製造

株式会社エフピコ北海道
 株式会社エフピコ山形
 株式会社エフピコ寒河江
 株式会社エフピコ茨城
 株式会社エフピコ下館
 株式会社エフピコ筑西
 株式会社エフピコ中部
 株式会社エフピコ笠岡

株式会社エフピコ箕島
 株式会社エフピコ福山
 株式会社エフピコ神辺
 株式会社エフピコ佐賀
 株式会社エフピコ南郷
 株式会社エフピコ鹿児島
 エフピコダックス株式会社
 エフピコ愛バック株式会社
 エフピコグラビア株式会社

エフピコ日本パール株式会社
 エフピコアルライト株式会社
 西日本ペットボトルリサイクル株式会社

物流

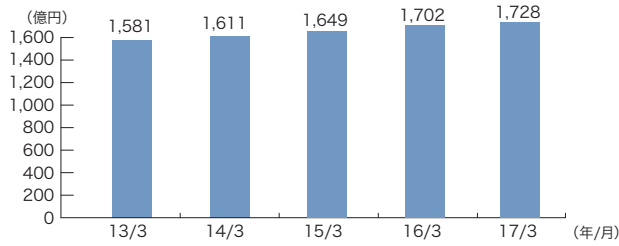
エフピコ物流株式会社
 株式会社アイロジック
 エフピコイーストロジ株式会社
 エフピコウエストロジ株式会社

販売・その他

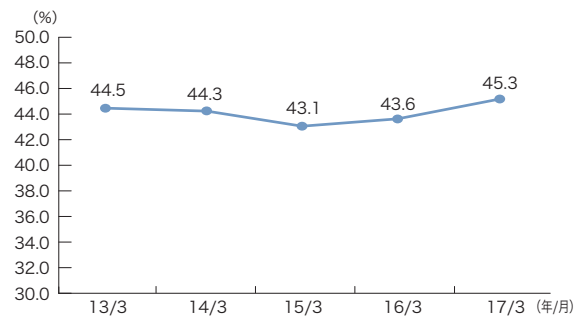
エフピコ商事株式会社
 エフピコチューバ株式会社
 エフピコインターパック株式会社
 エフピコダイヤフーズ株式会社
 エフピコイシダ株式会社
 エフピコみやこひも株式会社
 エフピコ上田株式会社

◆ 主要な経営指標

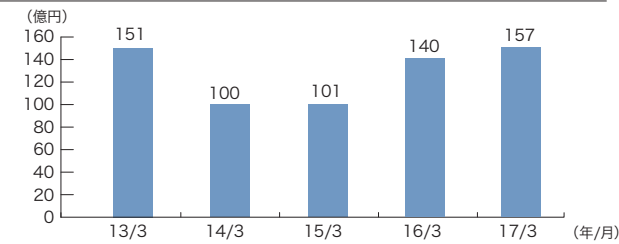
売上高（連結）



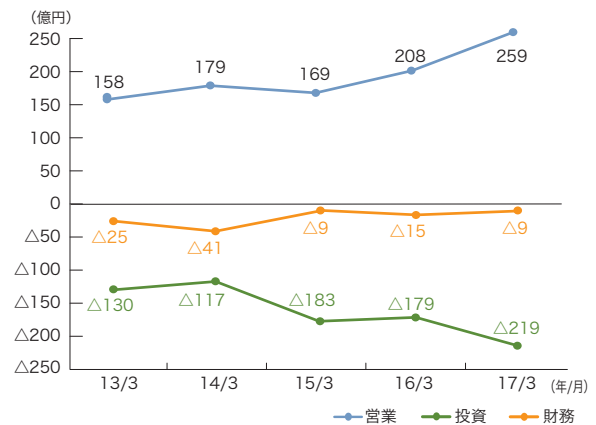
自己資本比率（連結）



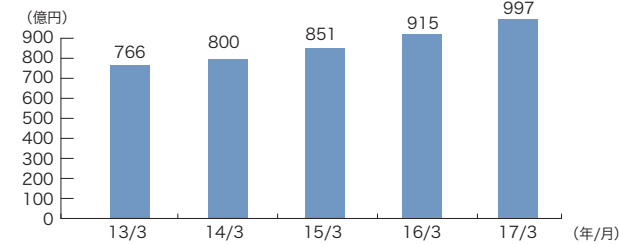
経常利益（連結）



キャッシュフロー（連結）



純資産額（連結）



TOPICS | 攻めのIT銘柄

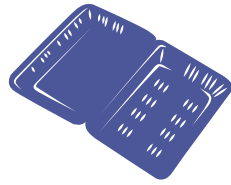
経済産業省と東京証券取引所が共同で選ぶ「攻めのIT経営銘柄」に2年連続で選定されました。「攻めのIT経営銘柄」は、東京証券取引所の上場企業のなかから、中長期的な企業価値の向上や競争力の強化といった視点からITの活用により経営革新や生産性の向上などを実現している企業を選定・紹介するプログラムです。今回の受賞は物流事業で導入している音声ピッキングシステムにより大幅な生産性向上を実現していること、生産工場において産業用ロボットを導入して包装工程の自動化を推進していることが評価されたものです。



TOPICS | 社員寮「Pico House」

2017年1月17日、社員寮の「Pico House」1号館が茨城県筑西市に完成しました。この建物は3階建て3棟で全150室。一部屋あたり30平米の専有面積にカウンターキッチン、40型テレビ、冷蔵庫、乾燥機付き洗濯機などの家電が完備されています。エントランスはオートロック式でセキュリティも確保。敷地内には中庭もあり、社員の憩いやコミュニケーションの場として活用できるようにデザインされています。3月には2号館も岐阜県安八郡に完成しました。





製品開発

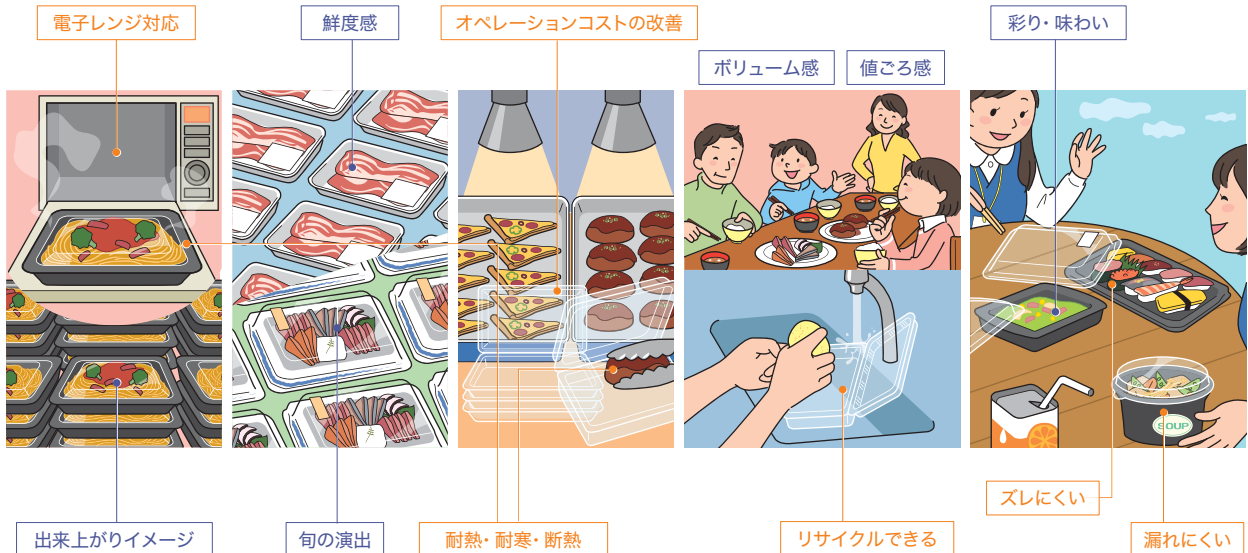


絶え間ない 高付加価値製品の開発

エフピコ製品の特徴

.....食品容器の“働き”

.....食品容器の“機能”



TOP
MESSAGE

創り続ける使命感

エフピコの製品開発は長年にわたり、社会構造の変化から生じる食品販売のニーズに応じてきました。それは私たちが自らに課した使命でもあります。

創業者
小松 安弘

「現場主義」、「顧客第一主義」というのがエフピコの経営哲学の根幹にあります。経営においてどのような舵を取るか、どのような製品を開発するかはスーパーマーケットなど食品販売の現場をよく観察することやお客様との密接なコミュニケーションが重要になります。現在の社会のように食のライフスタイルが早いスピードで変化している状況において、私たちもこの変化に対応しなければなりません。つまりエフピコの製品開発は、食品販売現場の環境を的確に把握し、かつスピーディでなければならないのです。

スピーディであるためのひとつの方法としては予測があります。市場の動向を見極めながら、“次に来る”であろうトレンドやニーズを予測した製品の開発も行っています。将来的に家庭でのケータリング需要が増えていくであろうこと、また電子レンジ対応製品のニーズがさらに大きくなるとの予測に基づいた開発も現在進めています。

お客様から新しい製品を求められた時、そこから考え始めるのでは遅いのです。私たちが食品容器の製造と販売を通して社会に貢献していくためには、常に前を見据えていなければなりません。自分たちが売り場を、市場を、人々のライフスタイルを創っていくんだという気概と使命感が必要なのです。決して立ち止まることなく、皆さまに喜んでいただける製品を創り続ける。それがエフピコの製品開発であると自負しています。

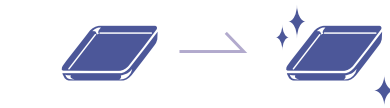
会長の小松安弘は2017年5月23日に急逝致しました。
生前に賜りましたご厚誼を深謝し心より御礼申し上げます。

◆ エフピコが開発する高付加価値製品

エコトレー・エコAPET

環境対応

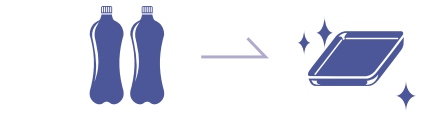
エコトレーとエコAPET(透明容器)はどちらもエフピコが開発した環境対応製品です。回収した使用済み容器・PETボトルからペレットもしくはフレークを製造し、それらを原料としてもう一度新しい製品を製造します。



エコトレー



スーパーなどで回収されたPSP(発泡素材)容器の再生品です。何度も繰り返し再生できる循環型リサイクルトレーです。



エコAPET



スーパーなどで回収された透明容器やPETボトルを再び透明容器として甦らせました。透明性・耐油性・耐酸性に優れています。

OPET

世界初の原料シート

OPETシリーズは、PETを縦・横に延伸して(2軸延伸)分子を配向させることで、強度と耐熱性をアップ。耐油性に加え、透明性を維持したうえで従来のPET素材の60℃耐熱から80℃までの耐熱を実現した、世界初の原料シートです。



新透明PP

高い透明性

耐熱性・耐油性に優れているので、電子レンジで加熱しても食品容器に変形も穴あきも生じません。また、PP素材はMC油脂等により脆化せず、破損しません。



マルチFP

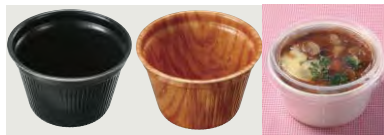
高低の温度対応

電子レンジの加熱に適した耐熱性(110℃)と、耐寒性(-40℃)を併せ持つ優れた発泡素材です。断熱性にも優れ、電子レンジで加熱しても食品容器の外側は70℃以下。中身の食材が高温でも安心して手で持つことができます。



マルチFP新製品「ドリスカップ」

今までのエフピコ製品にはない発泡素材の深型カップ形状の容器です。中皿を仕切りとして蓋を付け、おかず(上)とご飯(下)とのセット販売などに適した製品です。



マルチSD

高いデザイン性

電子レンジの加熱に適した耐熱性(110℃)に優れている製品です。マルチFPの改良により生まれた非発泡タイプで、成形性にも優れ、非発泡ならではのシャープな形状が特徴です。



新機能・新デザインの高付加価値製品

肉、魚、野菜などの生鮮食品をアソートしてパックし、そのまま電子レンジで加熱して食べられる嵌合型製品のレンジパック「蒸せるんです」のほか、漏れ難い、内容物がずれ難い、ツマの削減を可能にする、ボリューム感を訴求する、高級感のある折箱タイプ容器などのさらなる開発と販売拡大を行っています。エフピコはこれら自社で開発した製品において特許、意匠、商標の登録をしており、知的財産を守っています。

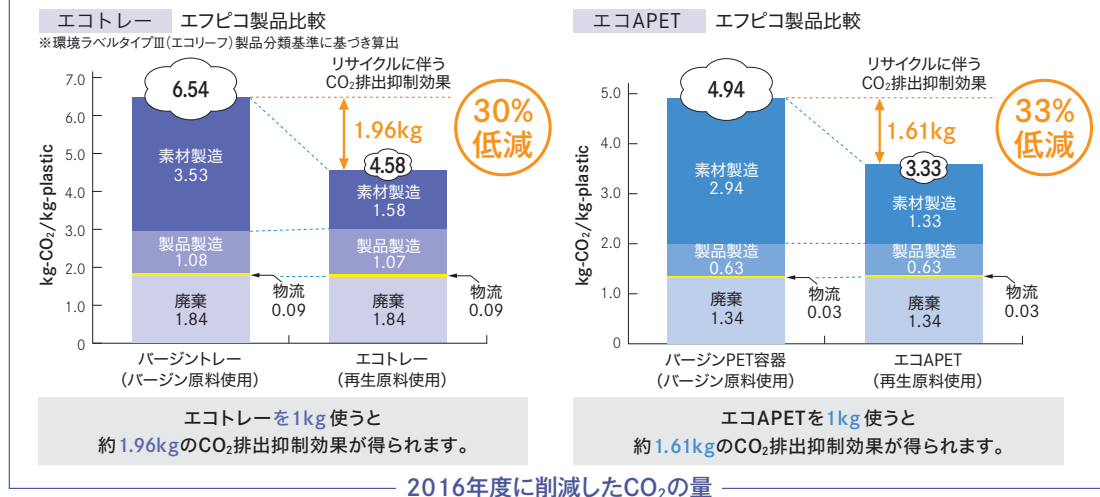




CO₂削減に貢献

エコトレーとエコAPETの2つの環境対応製品はCO₂の削減に大きく貢献しています。エコトレーではバージン原料を使うよりもCO₂を30%、エコAPETでは33%低減することができます。

エコリーフ基準をベースにしたバージン製品とリサイクル製品のCO₂排出比較



約11.1万トン

お客様であるスーパーマーケットなどの方々にCO₂負荷の低いエコ製品を選んでいただくことにより、社会全体が排出するCO₂が大幅に削減します。



食のライフスタイルや食品ロス削減に貢献

“ライフスタイルの多様化に対応”

エフピコの製品開発はお客様のニーズが出发点となっています。近年のスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで求められているのは消費者のライフスタイルの変化に対応できる食品容器です。一人暮らしの独身の方や高齢者、調理に多くの時間を割くことのできない仕事を持つ主婦、食事の時間が不規則になりがちな方々、毎日お弁当を作る保護者など現在の消費者のライフスタイルは非常に多様です。帰宅後にすぐレンジ加熱して食べることのできる容器や、食材の新鮮さを損なわない容器、自宅でも作り立ての美味しさを再現できる容器などエフピコが開発する食品容器は人々の食生活の変化に対応しています。

“食品ロスの問題にも貢献”

食品ロス問題は現在世界中で取り上げられていますが、エフピコもこの問題の解消に貢献したいと思っています。流通に適した衛生性と新鮮さを保持できる容器や個食対応の小さい容器はもちろんのこと、美味しく食べていただくということも食品ロスの削減に繋がると考えています。温かいものを温かいうちに、新鮮なものを新鮮なうちにという思いで、美味しさをお届けするための製品開発を続けています。



執行役員
生産本部副本部長 西地区担当
(兼)製品開発部 ジェネラルマネージャー
村岡 広行

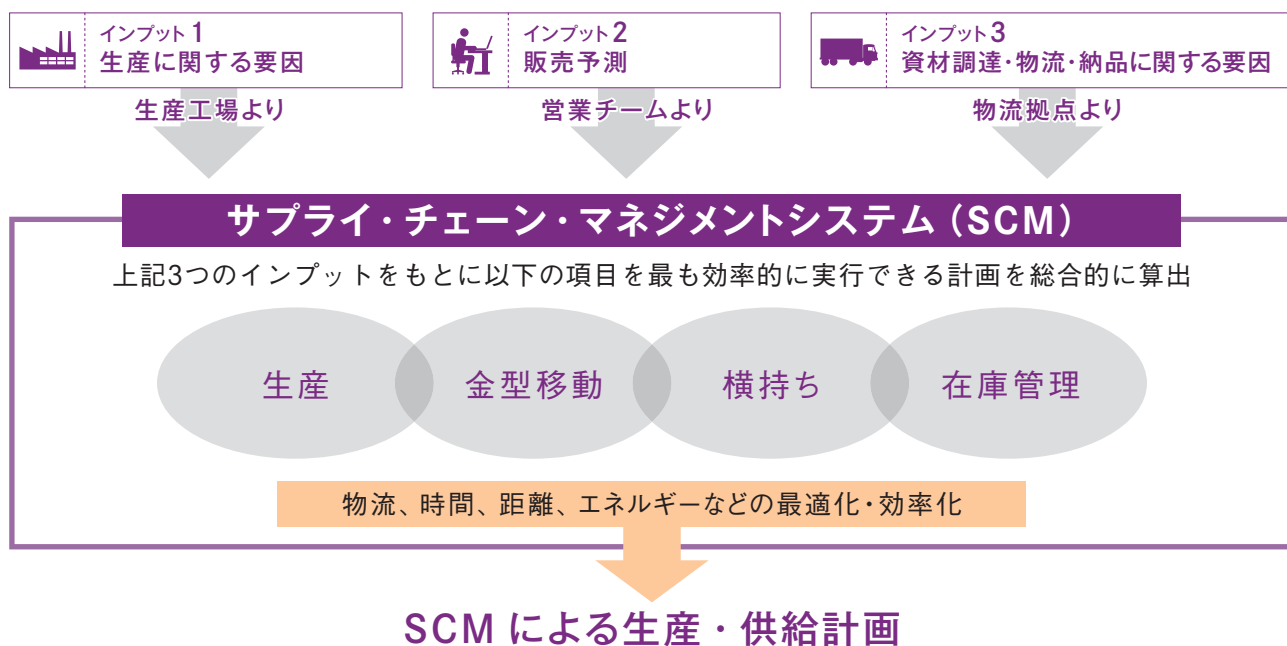


◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 食品容器製造 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆



高度精密化システムで
供給責任を果たす

◆◆◆◆◆ エフピコのサプライ・チェーン・マネジメント ◆◆◆◆◆



◆ 高度に精密化された生産計画

エフピコ福山本社のメインフロアの中央には、製造メーカーの核となるサプライ・チェーン・マネジメント (SCM) の部署を配置しています。この部署には、生産に関する制約や能力、営業チームによる販売予測、そして物流に関係する在庫状況や全国各地に配備された物流拠点間における製品移動の情報が集まります (左ページ下のチャート)。これらの多岐にわたる複雑に絡んだ情報から、エフピコグループ全体としての最も効率的な生産計画と在庫計画を策定しています。

毎年数千種類もの製品を改廃し、自社物流事業を展開するだけでなく使用済み容器のリサイクルも行っているエフピコのものづくりは、製品のライフサイクルを考慮した計画が根本となっています。



SCM が生み出す経営・環境メリット

“人とSCMシステムのハイブリッド”

SCM部は、まさにエフピコの心臓部であり頭脳です。1万を超える品種を計画的に生産するわけですから、高い精度の計画は非常に重要です。まずは集めた情報を、SCMシステムに入力してあらゆる組み合わせの中から最適解を導き出します。そして私たちが実践・検証を行うことで、より良い結果へとブラッシュアップしていく作業を行っています。また、日々入ってくる販売情報の変化を人間系でフォローすることで、急な案件にも速やかに対応しています。生産計画の精度を上げ続けることができるのは、私たち人間とSCMシステムの共同作業の成果です。

“労働環境の改善にも寄与”

SCMシステムから解を得る中で、可能な業務は自動化されています。PDCA (計画—実行—評価—改善) のサイクルの中で、倉庫間の在庫計画や生産計画の最適化された解に対して担当者がチェックを行うことによってミスも減り、作業時間も短くすることができます。結果、改善活動等を行うことができ、時短勤務とも組み合わせることで子育てをしながら仕事を続けられる環境にも繋がっています。



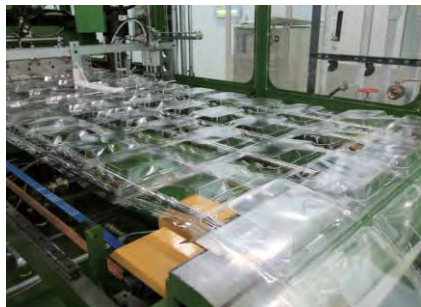
SCM企画部
松井 謙悟

“効率化で地産地消、CO₂も削減”

生産計画の精度を高めることは、可能な限り無駄を省くということに繋がっています。全国に自社の工場と物流網が展開しており、需要に応じた現地生産と、納品先への効率的な配送を行うことによって流通コストの最適化と同時に、運搬時に発生するCO₂を削減することができます。自分たちが担当している仕事がCO₂削減に繋がっているというのは、嬉しいですしやりがいも感じます。

◆ 全国を網羅する生産体制

エフピコの大規模な生産工場は全国に17カ所あり、各地の消費地近郊において生産供給体制を整備しています。巨大な消費地である首都圏には茨城県を中心に5つの工場を配しており、エフピコ独自の高性能製品や環境対応製品など、1万2千種類におよぶ製品をお客様のニーズに合わせてタイムリーに供給する体制を整えています。



特に付加価値の高いエフピコのオリジナル製品の生産に関しては、2010年以来工場の増設や設備の増強などで生産能力を高めています。

2017年8月には、各地で回収された使用済みPETボトルをリサイクルしてできたフレークをそのまま生産工程へと移すことのできる関東エコペット工場が茨城県結城郡八千代町に誕生します。現在でも関東八千代工場、東日本ハブセンター、関東配送センター、関東リサイクルセンターという生産、物流、リサイクルの各施設が集積していますが、そこにリサイクルと生産が一体化した大規模工場が加わります。



関東エコペット工場完成予想図

関東PETリサイクル工場は年間約2万トンのPET再生能力が予定されています。中部PETリサイクル工場で生産の2万トンに加え、リサイクルからの一貫生産としては年間4万トンの環境対応製品「エコAPET」製品の原料生産が可能となります。

◆ 生産工場におけるロボット化の推進

現在の少子高齢化社会において労働人口の減少は大きな社会問題のひとつですが、エフピコでも人材不足への対応の一環として2年前より生産工場におけるロボット化の推進を行っています。以前は箱詰めされた製品の移動のみをロボットで自動化していましたが、現在は4つの拠点において袋詰め（出来上がった製品をまとめてポリ袋に入れる作業）と段ボールケース梱包（ポリ袋で包装した製品を段ボールケースに入れる作業）も自動化しています。袋詰めからケース梱包へと作業が移る際には、金属探知機による異物混入の検査も自動的にを行い、安全性の確保にも配慮しています。

ロボット化のもうひとつの目的は生産性の向上です。日々のお客様からの要望に万全の体制でお応えするため、生産性の充実と安定を図ることも作業自動化の狙いです。導入から数年が経ち、その目的は着実に達成されています。



APET自動包装機(左)とケース梱包ロボット(右)



需要に確実に応える生産能力の整備

“少子高齢化への対応”

長く生産工場の責任者として働いていると少子高齢化の波を身をもって感じる場合があります。昔のように若い人がたくさん入社してくることがなくなり、工場で働く従業員の平均年齢が高くなってきています。経験を積むという意味ではいいことですが、年に数回訪れる繁忙期などは経験だけですべてをカバーするのは難しくなります。ロボットは「とにかく人手が欲しい」という時にやはり頼りになります。現時点では年間で換算すると、ロボットが導入された4つの工場の省人化は82名相当になります。それまで人が担当していた作業をロボットがやってくれているので、その分の人材を他の作業に振り分けることができるようになりました。

“供給者としての責任”

お陰様でエフピコは毎年製品の販売数が伸びており、その分供給者としての責任も大きくなっています。営業スタッフが受けてきた注文は私たち生産の現場の者たちが必ず応えられなければなりません。その意味でもロボットによる自動化は必然でした。ロボットが担当する作業は確実に計算ができますから、生産の安定性が上がります。人にしかできないことは人が、ロボットでもできる作業はロボットが担当という風に効率化しながら、今後のどんな生産目標もクリアしていきたいと思えます。



笠岡工場統括工場長
浅野 貫司



物流



タイムリーで 環境に配慮した物流

自社物流による高い適応力

エフピコは1979年以来、自社で製造した製品を自社で運送しています。
自社物流システムは全国を網羅し、エフピコが展開する事業の大きな柱のひとつとなっています。



◆ 全国を網羅する倉庫業と運送業のネットワーク

約1万2千種類の製品をタイムリーにお客様にお届けするためには、自社で配送計画を立てることのできるフレキシビリティが必要となり、自前の物流ネットワークであることが大きな利点となります。全国22カ所に配置した物流拠点のうち7つの拠点では配送センターとピッキングセンターが併設され、「集めて、揃えて、配達する」という物流業務の効率性を最大限に高めています。

● ピッキングセンター

- 北海道ピッキングセンター (北海道石狩市)
- 東北ピッキングセンター (宮城県大衡村)
- 関東ピッキングセンター (茨城県八千代町)
- 茨城ピッキングセンター (茨城県八千代町)
- 東京ピッキングセンター (東京都江東区)
- 八王子ピッキングセンター (東京都八王子市)
- 新潟ピッキングセンター (新潟県長岡市)
- 中部ピッキングセンター (岐阜県輪之内町)
- 関西ピッキングセンター (兵庫県神戸市)
- 福山ピッキングセンター (広島県福山市)
- 広島ピッキングセンター (広島県廿日市市)
- 九州ピッキングセンター (佐賀県吉野ヶ里町)



関西ピッキングセンター



八王子配送センター



● 配送センター

- 北海道配送センター (北海道石狩市)
- 東北配送センター (山形県寒河江市)
- 関東配送センター (茨城県八千代町)
- 東京配送センター (千葉県船橋市)
- 八王子配送センター (東京都八王子市)
- 東海配送センター (静岡県長泉町)
- 中部配送センター (岐阜県輪之内町)
- 関西配送センター (兵庫県神戸市)
- 福山配送センター (広島県福山市)
- 九州配送センター (佐賀県吉野ヶ里町)

TOPICS | 停電対応 (BCP: 事業継続計画)

エフピコは非常時の停電対応施策を数年前より推進してきましたが2016年9月、全国21の物流拠点への非常用発電設備の設置が完了しました。これは在庫拠点の97%をカバーすることになり、主要な配送センターとピッキングセンターはすべて非常用発電設備が設置されたことになります。これにより非常時でも72時間の電力供給を確保でき、そのための燃料備蓄もしています。自然災害や突発的な事故などによる非常時でもお客様に確実に商品をお届けすることをお約束いたします。



中部第2配送センター



八王子配送センター



九州第1配送センター

◆ エフピコの運送事業の特徴

エフピコの物流計画の一部はSCMの生産計画に連動して立てられます。生産に関わる金型の配送も物流計画の一部です。製品の運送にあたっては、効率性と正確性を高めるために以下の2つの施策を行っています。スーパーマーケットなどのお客様に対して、商品を予定時刻通りに納品することを日々実践しています。

● ルートプランナー（配車計画システム）

倉庫の場所、納品の場所と時間、それぞれの物量などの情報を入力することにより、最も効率的な配送ルート割り出すエフピコ独自のシステムです。

● R・D チェックシステム（配達状況確認システム）

納品状況をオンライン上でリアルタイムに確認できるシステムです。配達状況をウェブ上で見える化することにより、ドライバーは作業報告に時間を割くことなく配送に集中することができます。



◆ エフピコの倉庫事業の特徴

約1万2千種類もの製品に加えお客様からのリクエストに応じて他の商品を同梱して配送できるのは、倉庫業におけるエフピコの自社物流の利点です。この膨大な種類の商品をグループ企業で管理することにより、正確でフレキシビリティの高い対応が可能となるのです。

● 音声ピッキング

紙のリストを見ながら商品を集めるという作業を、音声による指示と返答で作業を進める音声ピッキングに変えてから作業効率が大きく上がりました。4年前に1時間あたり290本だったピッキング数（集める商品の数）が最近では750本にまでなっています。このシステムでは集めるべき商品を機械が音声で指示し、ヘッドフォンでそれを聞いたスタッフが自分の声で確認しながら作業をします。スタッフはアイズフリー・ハンズフリーの状態で行うため、集中力が高まり作業効率が大きく上がっています。作業ミスは100万分の0.7という驚異的な数字であるばかりでなく、高い成果がスタッフのモチベーションも上げるという相乗効果を生んでいます。



● クロスドックセンター

大規模な配送センターでは複数の倉庫をコンベアで繋ぎ、トラックが1カ所で荷積みができるようにしています。またそのための倉庫内のオートメーション化も進んでいます。





自社物流がもたらす可能性は無限大

“納品時間の誤差はプラスマイナス15分”

出荷の指示を行うのはエフピコ物流仕様で作成したシステムであるルートプランナーです。出荷した荷物を積みに来るトラックも自社手配ということで、出荷情報のやりとりを非常にスムーズに行っています。ドライバーが配送センターに到着する時には出荷する商品がソーターから流れてきますので、本当に時間の無駄がありません。こうしたスケジュール管理に加えてR・Dチェックシステムがもたらす効果により、85%の納品は予定時刻のプラスマイナス15分でお客様に到着しています。納品時間の誤差は年々短くなってきています。

“帰り便で使用済み容器を回収”

エフピコのリサイクル事業はグループ企業全体のなかでの大きな柱となっていますが、これも自社物流であるからこそ可能です。他社のルート配送を使っていたらスーパーマーケットで納品した後の空車両に使用済み容器を積んで帰ることはできません。エフピコが扱っている商品だけを配送しているからこそ、納品後のトラックもエフピコのために使えます。エフピコの4者一体のリサイクルが実現できたのも自社物流によるところが大きいのです。



エフピコ物流株式会社
土屋 裕貴



人手不足にもモチベーションアップにも力を発揮

“耳から入る情報で頭をフル回転”

音声ピッキングでは集める商品の指示が声として機械から流れてきます。当然と言えば当然なのですが、その指示が的確で無駄がないので、指示を受けるほうとしてもやりやすいです。しかもヘッドフォンを通して耳から入ってくるので、直接脳へと伝わる感覚があります。目を瞑っていても情報は受け取れますし、手元にも商品リストのようなものは何もないので、本当に集中することができます。結果として少ない人数でより多くの作業が可能になり、繁忙期の対応力も上がっていることを実感しています。繁忙期の増員も以前より減っていますので、その分の仕事を自分たちがやっているということですね。

“やる気を引き出してくれるシステム”

音声ピッキングは作業する人間に優しいシステムだと思います。こちらが間違いをすると音声は止まり次には進めないで、自分が間違っていると分かります。作業の半分を機械がやってくれるので自分たちは指示に応えることに集中できるのです。そして、この集中力が途切れることはありません。両目と両手が常に自由に使える状態で、耳からの指示に応える形で目と手を動かしていることが楽しくさえてきます。その結果としてピッキングの本数が増えるという成果が出ると、もっとやる気が出てくるのです。



株式会社アイ・ロジック
宮繁 汐梨 宮地 朋加



販売



お客様視点を貫く 提案型販売

顧客視点に基づく高い提案力

社会の動向を知り、食品販売の現場を熟知し、お客様のニーズを把握して常に高い提案力を身に付ける努力をしています。



◆ 提案型セールス活動

エフピコの営業スタイルは徹底した現場主義に基づく提案型のセールスです。売り場も含めたお客様への月100回の訪問を目標とし、売り場づくりや環境対策などトータルなソリューションをお客様に提案しています。食品販売の現場担当者の方々が抱える課題をエフピコの食品容器を用いて解決するための提案を行っています。

● 商品提案会

主に全国のスーパーマーケットの食品売り場担当の方々を対象としたプログラムです。エフピコが開発した食品容器の特徴をご理解いただき製品が持つメリットを活かして売上に繋げていただけるよう製品プレゼンテーションと売り場づくりの提案を行っています。提案会ではスーパーマーケットにおける食品分野の市場調査、売り上げトレンドに関する分析、エフピコ営業スタッフによる所見などを説明します。そして、そうした状況においてどのような商品づくり、売り場づくりを目指すべきかを解説・提案します。そのうえでさまざまな種類のエフピコ製品をプレゼンテーションし、商品づくりと売り場づくりに役立てていただく方法を説明します。

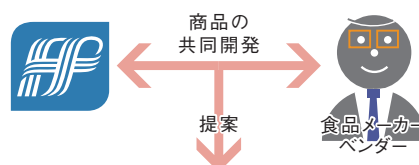
その後、キッチンスタジオに移動してご提案の内容を再現した商品や売り場の事例もご覧いただいています。キッチンスタジオのある東京本社と大阪支店においては、定期的に商品づくり、売り場づくり提案会を開催しています。



● コ・クリエーション型営業

エフピコは食品メーカーやベンダー（惣菜、弁当製造業者など）の方々との協働で食品売り場づくりや市場の創造を行う「コ・クリエーション型営業」を推進しています。コ・クリエーションとはつまり、「共に創造する」ことであり、食品とそれを入れる容器のそれぞれの製造者による協働作業で販売する食料品をスーパーマーケットなどの方々に提案営業することです。

この方法によりエフピコの製品力に食品メーカー・ベンダーの商品力をマッチングさせ、さらに魅力的な商品を創り上げてお客様に提案することができます。例えば調味料の食品メーカーとの協働により、カット野菜と調味料をそのままレンジ加熱可能な容器に入れたセット販売の提案をします。カット野菜は調味料との相性が良い物を、またエフピコの容器で蒸した時の食感などが良いものを選びます。この提案により、スーパーマーケットでは食材の選択、容器の選択、売り方の考案などを行う手間を省くことができます。さらに、こうした商品の売り場の演出方法などもエフピコから提案を行っています。この営業スタイルは売上やオペレーションにおいて、お客様に大きなメリットをもたらしています。



営業拠点

ビジネスの中心である東京本社と大阪支店の営業拠点を中心とし、以下の拠点で営業活動を行っています。

福山本社：広島県福山市

東京本社（キッチンスタジオ常設）：東京都新宿区

大阪支店（キッチンスタジオ常設）：大阪府大阪市

営業所：札幌営業所（北海道札幌市）、仙台営業所（宮城県仙台市）、新潟営業所（新潟県新潟市）、

静岡営業所（静岡県静岡市）、北陸営業所（石川県金沢市）、名古屋営業所（愛知県名古屋市）、

広島営業所（広島県広島市）、四国営業所（香川県高松市）、福岡営業所（福岡県福岡市）

◆「エフピコフェア」の開催

エフピコの提案型セールスの形を凝縮して開催するのが毎年3月に東京で開催する「エフピコフェア」です。今年度も2017年3月15日～17日にわたり東京ビッグサイトで開催しました。来場者数は1万5千人で、その数は回を重ねるごとに増えてきています。主な来場者は普段からエフピコとお付き合いのあるスーパーマーケット、コンビニエンスストア、惣菜屋さんなどの食品販売者様です。フェア会場となる展示ホール内にいくつもの食品売り場を再現し、お客様がいつも働いている店舗にいるという視点で展示、つまりエフピコからの売り場・売り方提案をご覧いただけるという仕組みです。この臨場感と見やすさ、理解しやすさはお客様から高い評価をいただいております、それが来場者数増加の理由といえるでしょう。



今回のフェアは「ちがうネいいネおいしいネ」というキャッチフレーズのもと、「その壁をブッ飛ばせ!」と「つかえるぞ! 容器の力」という2つのテーマで会場を構成しました。特に前者のゾーンは人気が高く、包材費の壁、固定概念の壁、人手不足の壁、部門の壁により“やりたいけど諦めていたこと”に挑戦する工夫の展示を真剣に見入っていらっしゃいました。後者のゾーンでは約1,800の新製品を紹介する展示を催事、精肉、鮮魚、青果、寿司、温惣菜、冷惣菜、米飯という食品の種類ごとに行いました。



《提案型セールスを実践するためのさまざまな施策》



● 担当営業がお客様を探すための工夫

今回のフェアでは来場したお客様の入場証にICチップを埋め込み、GPSシステムにより会場内の所在を把握できるようにしました。エフピコの担当営業スタッフが混雑した広い会場内でお客様を見つけるための施策です。ひとりの営業スタッフが多くのお客様を担当していますので、広い会場で特定のお客様を探し回る時間の無駄を省けるこのシステムは非常に有効でした。



● 新製品を分かりやすく展示

エフピコは毎年約1,500種類もの新製品を発表しています。形や機能をほんの少し変えるだけのモデルチェンジからまるっきり新しい機能を持つ新製品まで、その種類はさまざまです。こうした容器を使う立場のお客様に新製品の特徴を理解していただき、エフピコが意図する有効な使い方を知っていただくため、実際に食材を入れて一目で分かる展示を心がけています。



● 消費者の視点をイメージするための試食

フェア会場内ではいたるところで試食も行っています。出来立ての美味しさや簡便性が特徴の容器の場合、その良さを理解していただくためには実際にその容器を使用した食品を召し上がっていただくことがベストであると考えます。スーパーマーケットの売り場担当者であるお客様が、消費者の立場になって試食をしていただければ、エフピコの容器を採用するメリットの理解に繋がると考えます。



● 会場内の展示エリアは撮影可

エフピコフェア会場内に「撮影禁止」の表示はありません。来場したお客様には展示した売り場づくりのアイデアを是非お持ち帰りいただきたいと考えています。そのために展示品を撮影することは有用な情報収集手段です。売り場づくりや販売方法を考案するうえで、少しでもヒントとなることを展示を通して感じとっていただけたならば、忘れないうちに写真に撮ることをお勧めしています。



● 興味を持った製品はすべてお持ち帰り可

会場導線の最後となる出口付近には展示で使用している製品を持ち帰っていただくためのコーナーを設けています。展示をご覧いただいて得たアイデアをご自身の店舗で試していただく上で、お試用製品は欠かせません。よほどの大量でない限りサンプル品の数制限はありません。また、希望する量が多くなった場合のために、宅配便の手配もその場で行っています。



リサイクル



持続可能な社会の構築に寄与する エフピコの根幹事業のひとつ

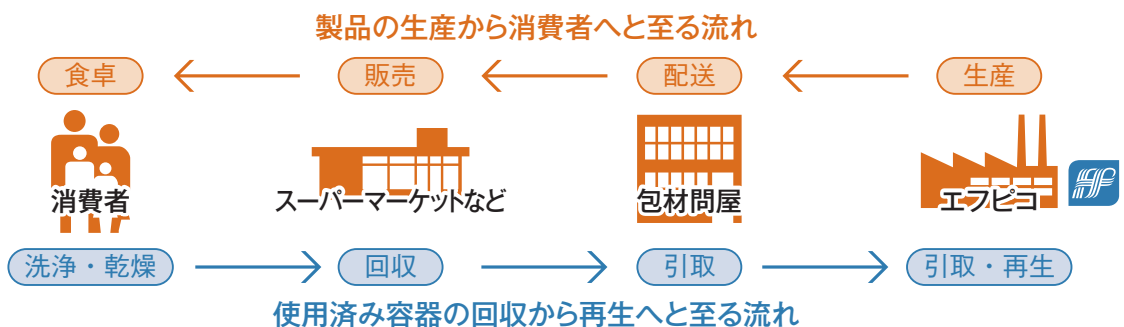
エフピコ方式リサイクル

エフピコは4者一体による食品容器のリサイクル工程を1990年から実施しています。

リサイクル発泡トレー
「エコトレー」



リサイクル透明容器
「エコAPET」



◆ リサイクル事業の成果

エフピコでは、一度使用された容器を回収しエコトレ（再生トレ）・エコAPET（再生透明容器）を生産しています。使用済み容器をエフピコのリサイクル工場へと戻すこのシステムは、消費者、スーパーマーケットなどの流通業者、包材問屋、エフピコの4者が一体となった協体制で成り立っています。2011年以降はPETボトルをリサイクルしてエコAPETにする活動も行っています。

使用済み容器を廃棄せずに回収し、再生原料として使用することでさまざまな成果を生み出しています。原料となる貴重な天然資源である石油の使用量削減、資源を循環させることによる廃棄物の削減、納品後に空となった車両で使用済み容器を運ぶことによる物流におけるCO₂削減など、その波及効果は計り知れません。天然資源を枯渇させないため、地球環境を守るため、エフピコではリサイクル事業により地上資源の活用を推進しています。

	発泡トレ		透明容器		PETボトル	
	回収量	枚数	回収量	枚数	回収量	本数
2016年度	6,215t	15億5,375万枚	2,125t	2億1,250枚	2万8,291t	11億3,164万本
累計 (1990年～ 2017年3月)	13万2,482t	331億1,575万枚	1万1,935t	12億0,250枚	12万3,427t	42億4,874万本

※発泡トレ：4g/枚、透明容器：10g/枚、PETボトル：25g/本で計算（2016年度より変更。それ以前は30g/本で計算）。

今までに節約した地球資源

石油の量：
5億2,200万リットル



ドラム缶
約261万本分

今までに節約した社会的コスト

ゴミ回収費：
約627億円



回収車
約251万台分

今までに回収した量



東京ドーム
約44杯分



障がい者雇用の機会を創出

エフピコではリサイクル工程における使用済み容器の選別作業に障がいのある従業員の力を活用しています。この工程はすべてを自動化することが非常に難しく、人の手による選別や一列に並べるなどの作業が必要不可欠となっています。

この工程において障がいのある従業員が能力を発揮し、高い生産性で作業に従事しています。提携先を含め全国9カ所の選別センターで200人以上が働いています。



発泡トレ・透明容器の選別ラインで障がいのある従業員は大きな戦力となっています。



◆ 循環型社会づくりに向けたエフピコの歩み

高度成長期の“使い捨て”時代においてゴミの廃棄が日本各地で問題になっていた時、エフピコはこの問題に即座に対応し、自社が製造した食品トレーのリサイクルをスタートしました。1990年のことです。エフピコ独自の4者一体のリサイクル方式を確立し、年を追うごとにリサイクルする使用済み容器の量を増やしてきました。現在ではスーパーマーケットなど約9,200拠点で回収し、全国10カ所の減容・選別センターで素材別に選別した後、3カ所のリサイクル工場において再びトレーや容器へと再生しています。

エフピコのリサイクル事業は国や自治体による環境保全の政策と同調しながら発展しています。リデュース・リユース・リサイクルの「3R」という言葉を合図に日本の環境問題への対策は始まりましたが、エフピコはその後も「エコマーク」「エコ・ファースト企業」など、キーワードを冠した賞の授与または認定を受け続けています。真の循環型社会実現に向けたエフピコのリサイクル事業はこれからも続いていきます。

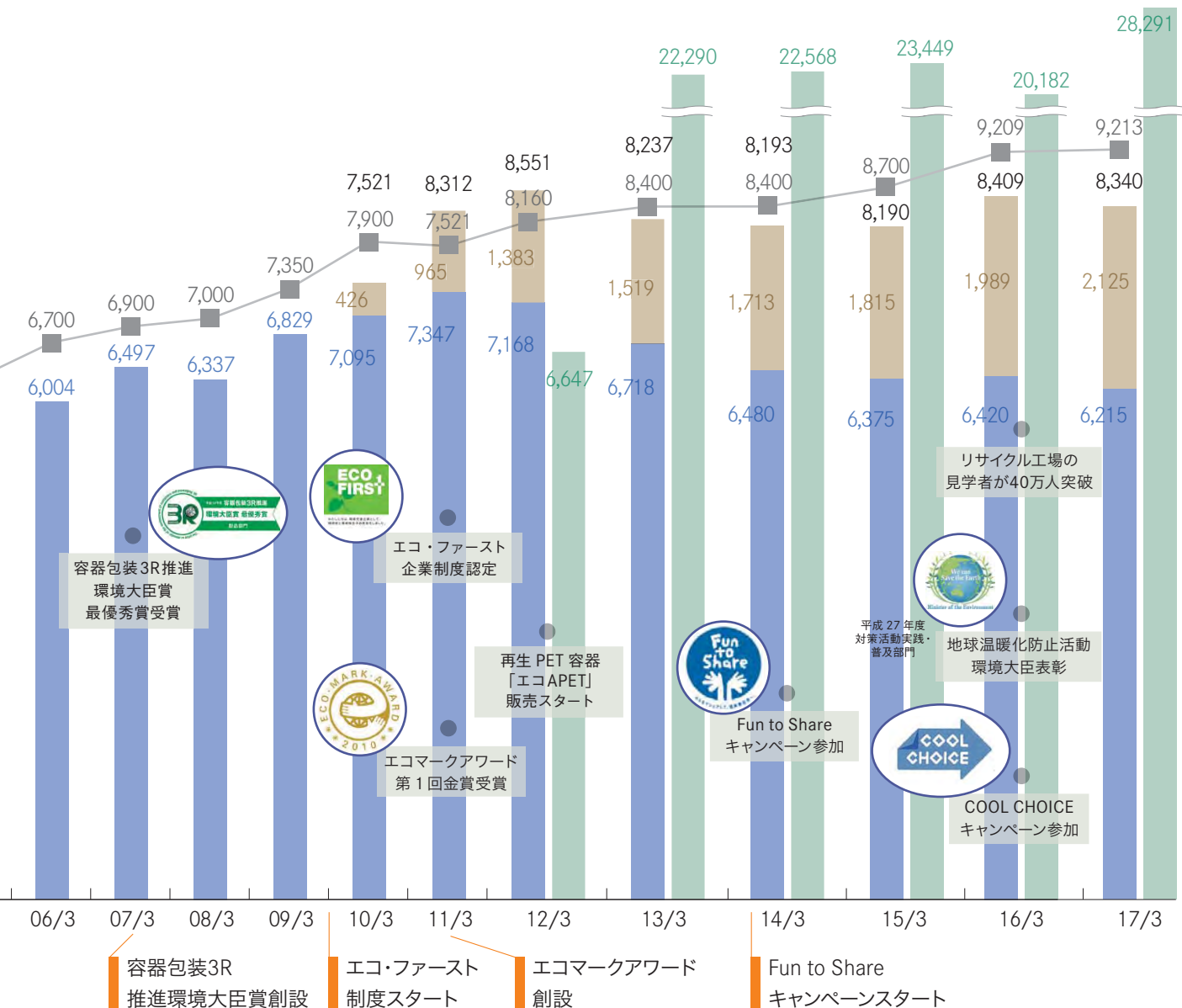
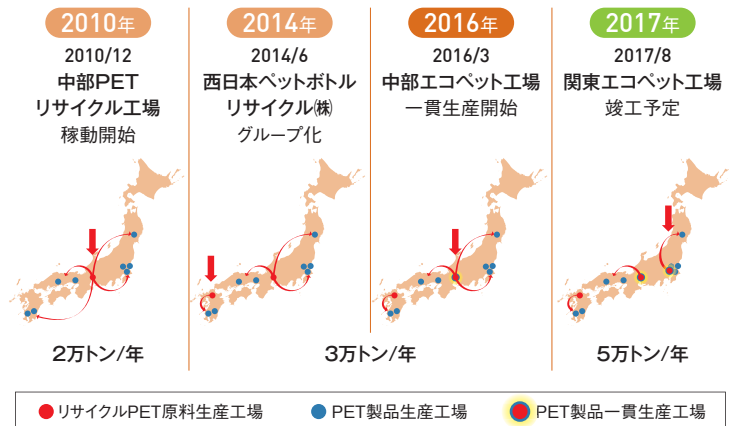




地上資源メーカーへの発展

リサイクル事業を展開する過程において、エフピコではPET製品の使用済み容器やPETボトルから、原料であるフレークを再生する事業を推し進めてきました。大規模なリサイクルプラントの導入や他企業のグループ化などを経て、2017年には年間5万トンのPET原料が供給可能となります。食品容器メーカーであるエフピコですが、リサイクル事業を通じて資源メーカーとしての発展も遂げています。

《リサイクルPET原料供給の推移》



◆ リサイクル工程

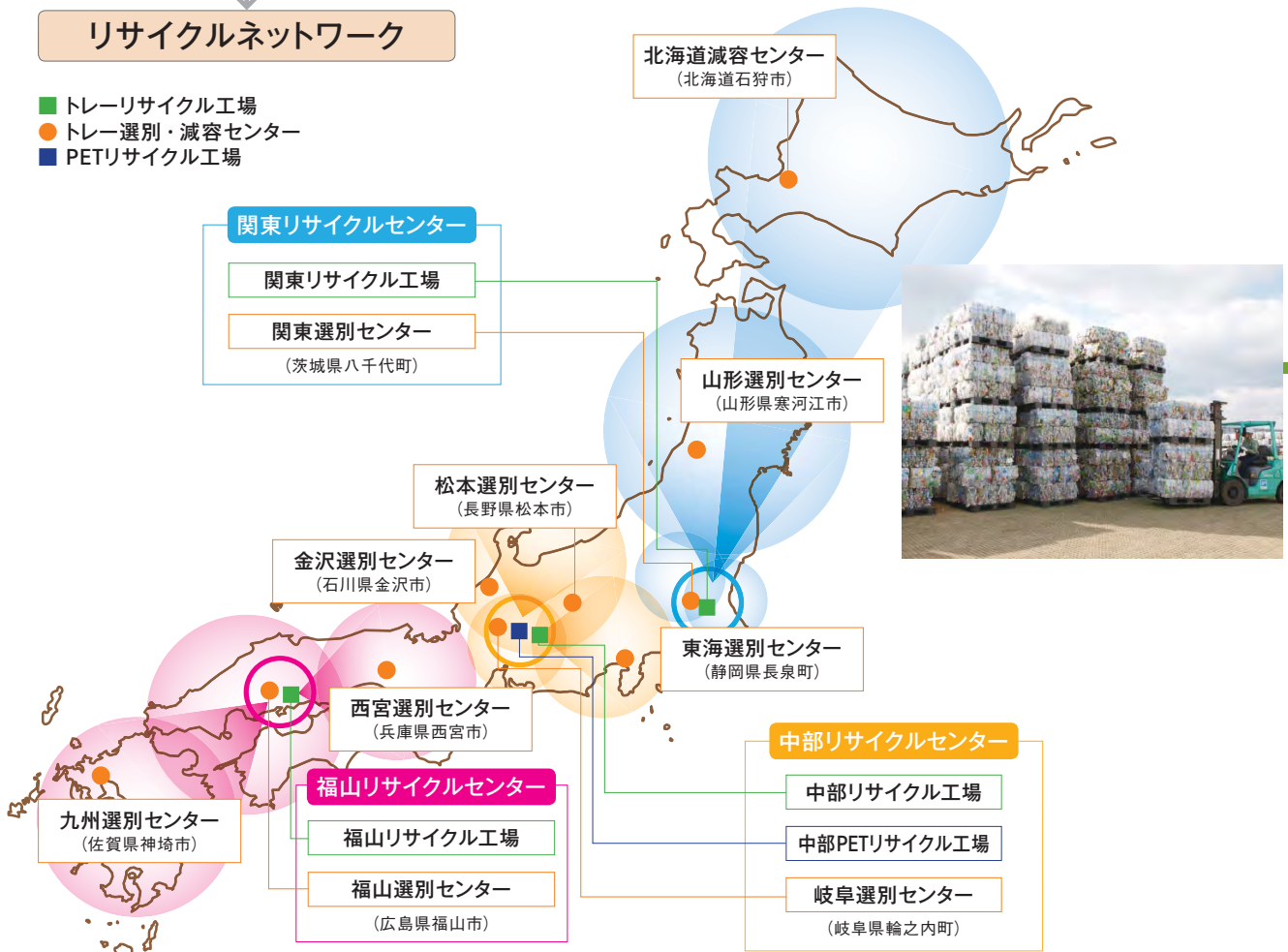
家庭などで使用された食品容器は一旦リサイクル工程の輪に入れば何度でも繰り返し再生することができます。原料から製造する工程に比べて工程数も少なく、貴重な天然資源もCO₂も削減することができます。

スーパーマーケットなどで回収された各種使用済み容器は収集されて全国に配置されたエフピコのリサイクルセンターなどへ運搬されます。

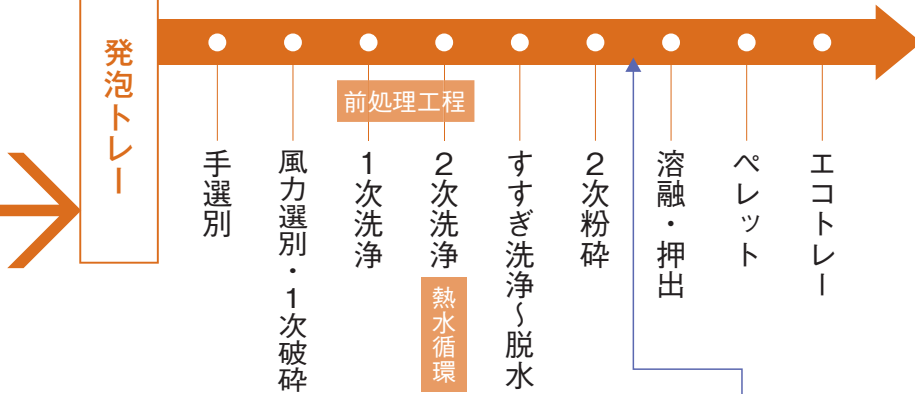


リサイクルネットワーク

- トレーリサイクル工場
- トレー選別・減容センター
- PETリサイクル工場



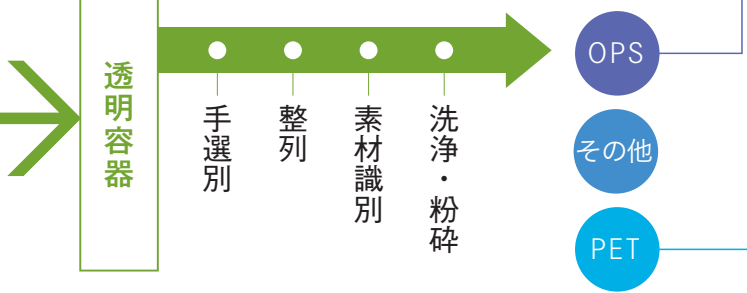
発泡トレーのリサイクル工程の詳細



エコトレーには
エコマークが付いています

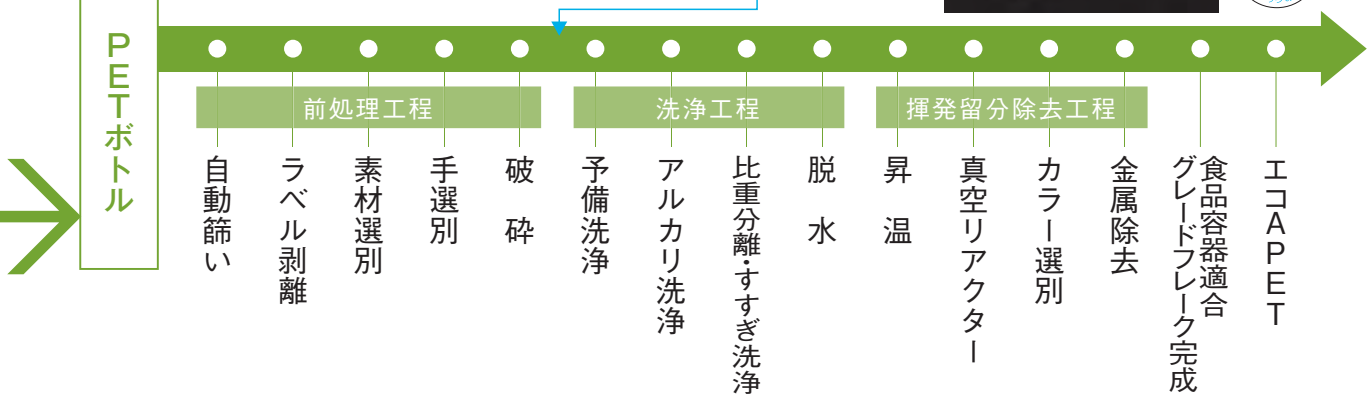


透明容器のリサイクル工程の詳細

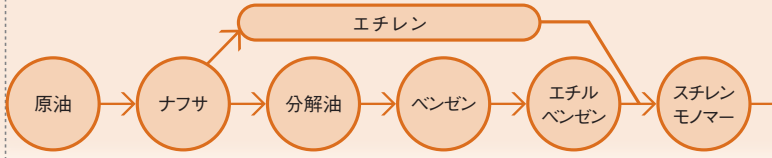


エコ
APET

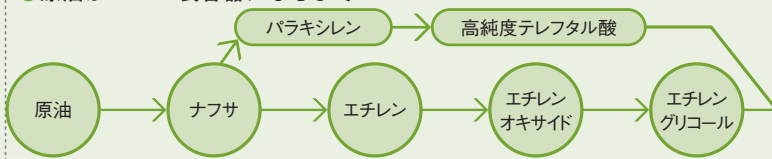
PETボトルのリサイクル工程の詳細



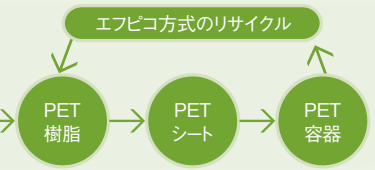
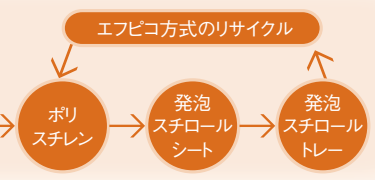
●原油が発泡スチロール製トレーになるまで



●原油がAPET製容器になるまで

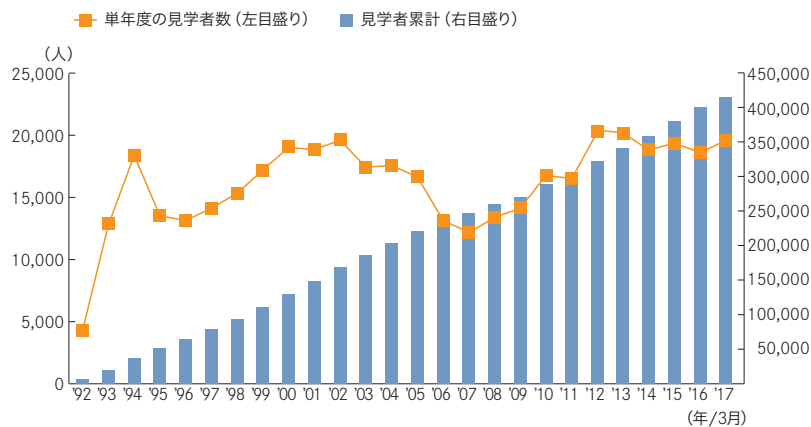


「エフピコ方式」のリサイクルで省ける工程



◆ リサイクル工場の見学

1992年にスタートしたリサイクル工場見学者の受け入れですが、毎年約2万人の方々をお迎えしています。教育機関、消費者団体、自治体の方々などその内訳はさまざまです。エフピコのリサイクル工場にぜひお越しください。大きな発見と貴重な体験をしていただけることをお約束いたします。



● 使用済み容器をお近くの回収ボックスに！

スーパーマーケットなどに設置の回収ボックスに使用済み容器を入れた後、一体その後どうなるのかを考えたことがある方も少なくないと思います。リサイクルされて食品容器として生まれ変わる様子を見ていただき、ひとつの容器がどれほど貴重な資源となるかをぜひご覧ください。工場見学をした方々のほとんどは環境に対する意識が大きく変わり、「もっとたくさん集めよう」という気持ちになっていただけるようです。工場見学については以下をご覧ください。皆さまのお越しをお待ちしております。

工場見学の申し込み受付

見学受入日時:月～金(祝日を除く)9:00～16:00(一部施設を除く)
ホームページからも申込みいただけます。

<リサイクル工場> 選別された容器が再生原料になるまでをご覧ください。

工場名	所在地	問い合わせ先	1団体あたり 最大受入人数
関東リサイクル工場 (関東選別センター併設)	〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大字平塚4448	関東リサイクル工場 0296-48-0400	120名
中部リサイクル工場 (中部PETリサイクル工場・ 岐阜選別センター併設)	〒503-0231 岐阜県安八郡輪之内町南波字村東511-5	中部リサイクル工場 0584-68-2041	60名
福山リサイクル工場 (福山選別センター併設)	〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2	福山リサイクル工場 084-957-2301	130名

<選別センター> スーパーなどから回収された容器を選別する様子をご覧ください。

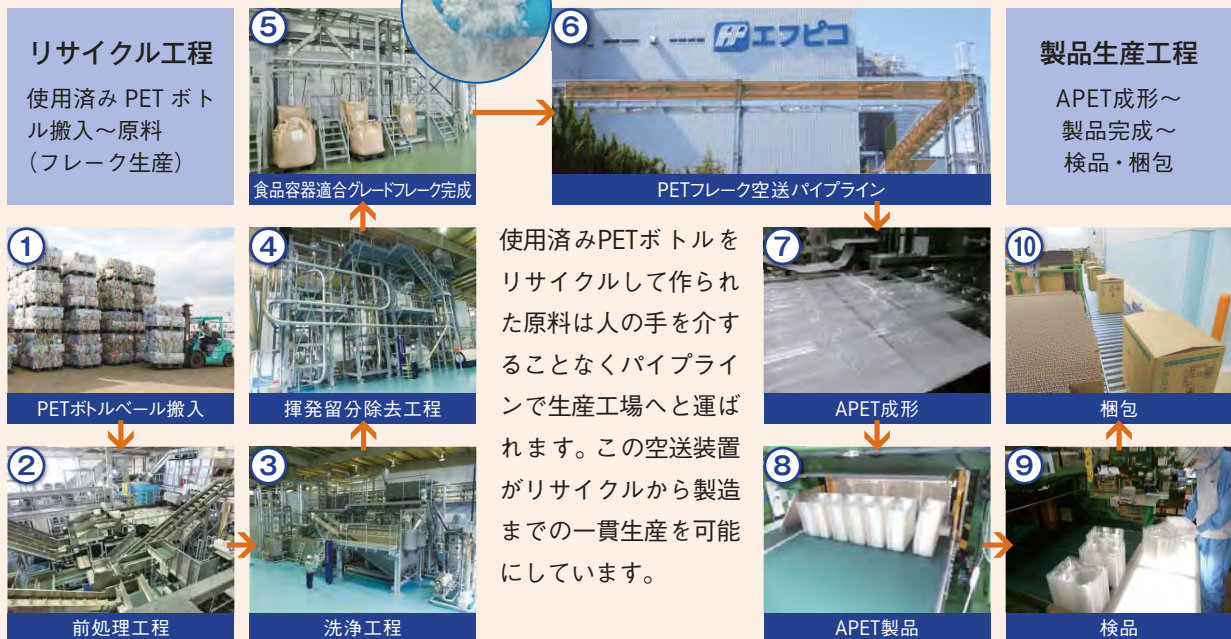
工場名	所在地	問い合わせ先	1団体あたり 最大受入人数
山形選別センター	〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地162番地	山形選別センター 0237-85-3645	20名
東海選別センター	〒411-0934 静岡県駿東郡長泉町下長窪八反田307-1	東海選別センター 055-980-4571	20名
松本選別センター	〒390-0852 長野県松本市大字島立2267番地	東京本社環境対策室 03-5325-7809	15名
金沢選別センター	〒920-0376 石川県金沢市福増町北204番地22	東京本社環境対策室 03-5325-7809	15名
西宮選別センター	〒651-1431 兵庫県西宮市山口町阪神流通センター1丁目98-2	西宮選別センター 078-907-1288	45名
九州選別センター	〒842-0015 佐賀県神埼市神埼町尾崎3032-1	九州選別センター 0952-51-1028	30名

見学プログラムの
一例
(計:約90分)

1. リサイクルの流れの説明(10分)工場見学ルームで食品容器がリサイクルされるまでの流れを説明します。
2. リサイクル工程の見学(30分)容器が運ばれてくるところからペレット(トレーの材料)になるまでをご覧ください。
3. プレゼンテーション(25分)エフピコが行っている食品容器のリサイクル事業を詳しく説明します。
4. 説明ビデオ(15分)プレゼンテーションで説明した内容をまとめたビデオをご覧ください。
5. 質問タイム(10分)見学者からのさまざまな質問にお答えします。

TOPICS | 中部エコペット工場

2016年2月28日、PETボトルからエコAPET製品を製造する一貫生産拠点である中部エコペット工場が完成しました。それまでは使用済みPETボトルをリサイクルして原料(フレーク)にするまでの工程で終わっていたリサイクル工場の隣に生産工場を配置することにより、使用済みPETボトルから環境対応製品であるエコAPETをダイレクトに生み出すというエフピコの夢がひとつつきました。全国の皆様には是非この施設をご覧くださいと思います、150人を収容できる大型の見学スペースも設けています。



建屋内は4階層で1階に押出工場・成形工場・現場事務所、2階には原反倉庫と食堂・更衣室などのサブスペース、3階には出来上がった製品を保管する物流倉庫があります。1階と2階の間には中2階が設けられており、見学をメインとした来客者用のスペースと会議室もあります。一般消費者の方はまだ受け入れていませんが、見学ルームは150名を収容できる大きなスペースとなっており、見学者は押出工場でのシート製造工程から成形工場での製品製造工程まで一貫した生産ラインをご覧いただけます。隣接のリサイクル工場まで含めると、エフピコが実践している使用済み容器のリサイクル全工程をひとつの拠点でご覧いただけることとなり、この中部の拠点はエフピコのリサイクル事業をお見せするための巨大なショールームであるとも言えます。2016年度内にはエフピコグループの多くの社員も見学を行い、今後は本格的なショールームとしての機能も果たしていく施設となります。





◆◆◆◆◆ ダイバーシティ経営 ◆◆◆◆◆



“多様性を力に変える”
という考え方

◆◆◆◆◆ “共に働く”ことを目指しています ◆◆◆◆◆

ダイバーシティを推進する経営方針を多方面で認められています。
多様性を企業力に変換し、企業力を多様性に還元する循環型を目指しています。



エフピコは経済産業省主催の2014年度「ダイバーシティ経営企業100選」に選ばれました。ダイバーシティ人材を活かしてイノベーションの創出・生産性の向上等の成果を上げている企業を表彰する制度で、容器製造やリサイクルの現場において障がいのある従業員の活躍が企業全体の価値につながっていることが評価されました。



エフピコの女性社員のほとんどは結婚後も離職せず、女性社員の育児休暇取得率も100%です。



広島県が提唱する、障がいのある人と共に生きていく共生社会の実現を目指す「あいサポート運動」において、エフピコはフロアホッケー活動の全国的な広がりに加えて、競技大会運営等にも社員が積極的に参加していることが評価され、第一回広島県あいサポート運動企業表彰(2016)を受けました。

● エフピコの障がい者雇用年表

- 1986年 1月 (株)ダックス設立
- 1988年 (株)ダックスに千葉県雇用開発協会
障害者雇用優良事業所表彰
- 1995年 4月 (株)ダックス四国設立
- 1995年 4月 (株)ダックスに障害者雇用優良事業所労働大臣表彰
- 2002年 (株)ダックス四国に高知県知事表彰
- 2006年 4月 (株)ダックス佐賀設立
- 10月 広島愛バック(株)設立
- 2006年 (株)ダックス四国に障害者雇用優良事業所表彰
- 2007年 3月 エフピコ愛バック(株)設立
- 2月 広島愛バック工場開設 9月 エフピコ愛バック茨城工場開設
- 5月 エフピコ愛バック福山工場開設 10月 エフピコ愛バック西宮工場開設
- 8月 エフピコ愛バック佐賀工場開設 10月 エフピコ愛バック山形工場開設
- 9月 エフピコ愛バック岐阜工場開設
- 2008年 5月 エフピコハートリサイクル佐賀選別センター開設
- 9月 エフピコハートリサイクル岐阜選別センター開設
- 9月 エフピコハートリサイクル福山選別センター開設
- 10月 エフピコハートリサイクル西宮選別センター開設
- 2009年 1月 愛バック事業を統合
(広島愛バックをエフピコ愛バック広島工場へ)
- 3月 エフピコ愛バック北海道工場開設
- 2009年 (株)エフピコが厚生労働省障害者雇用優良企業認証取得
- 2009年 8月 (株)茨城ビジョンリサイクル設立
- 2010年 10月 エフピコハートリサイクル山形選別センター開設
- 10月 エフピコハートリサイクル北海道選別センター開設
- 2014年 エフピコ愛バック(株)に広島県障害者雇用優良事業所表彰
- 2015年 3月 エフピコハートリサイクル北海道選別センターが北海道減容センターに
- 2015年 3月 (株)エフピコが、平成26年度ダイバーシティ経営企業100選に選出
- 2015年 12月 八王子PW開設
- 2017年 1月 特例子会社をエフピコダックス(株)に統合



従業員数

障がいのある従業員	374名
内訳	
身体障がい	35名(うち重度15名)
知的障がい	335名(うち重度258名)
精神障がい	4名

雇用率換算数	644名
--------	------

障がい者雇用率	13.95%
---------	--------

※2017年3月末現在

TOPICS | 2017年1月 特例子会社をエフピコダックス(株)に統合

2017年1月、エフピコの特例子会社である株式会社ダックス、株式会社ダックス四国、株式会社ダックス佐賀、株式会社茨城ビジョンリサイクルを統合。さらにエフピコ愛バック株式会社北海道工場の事業を加えて商号変更し、エフピコダックス株式会社が誕生しました。エフピコダックスは旧ダックス四国高知工場を本社工場とし、6事業所で従業員187名(うち障がいのある従業員が113名)が食品容器製造、回収容器選別業務に従事する全国規模の大規模な特例子会社となりました。今回の統合により効果的な人材活用と障がいのある従業員の能力開発と生産性向上に関するノウハウの共有を図ります。各拠点が今まで以上に緊密な連携で結ばれることにより職場を活性化させ、障がいのある従業員のやり甲斐、働き甲斐のある職場を形成していきます。

※2017年3月末現在



◆ フロアホッケー活動

エフピコにおけるフロアホッケー活動は2010年にスタートしました。障がい者のオリンピックである「スペシャルオリンピックス」世界大会の長野大会で中心的な役割を果たした現日本フロアホッケー連盟の理事長である細川佳代子氏と社長の佐藤との出会いがきっかけでした。障がいのある従業員を多く雇用するエフピコならば、障がいの有無を超えた社員同士の交流の機会となるのではないかと佐藤は考えました。

その後フロアホッケー活動は社員の間で徐々に広がっていき、今では全国に10拠点18チームがあります。約650名の社員が参加し、そのうち障がいのある社員は約200名です。それぞれのクラブは各地域で定期的に活動を行い、地域や全国で開催される大会などに参加しています。今ではフロアホッケーは他のレクリエーション活動と同様に、エフピコが福利厚生の一環としてサポートしている社員による自発的な活動のひとつになっています。

フロアホッケーをやっている時は年齢も性別も役職もすべて関係ありません。誰もがチームの一員としてプレーします。エフピコにおけるフロアホッケー活動はレクリエーションのひとつではありますが、同時に障がいのあるなしにかかわらず同じエフピコグループの従業員として交流するインクルージョンを目指す取り組みでもあります。フロアホッケー活動を通じてインクルージョン社会の輪が広がることにエフピコは期待しています。

またエフピコは全日本競技大会と中国・四国大会をスポンサリングすることでフロアホッケーを支援しています。各大会では多くの社員が運営を支えるなど運営面でも協力を行っています。



エフピコに根づくフロアホッケー精神

“障がいのある人と交流するきっかけ”

私自身、エフピコで働いていなければ障がいのある人たちと話をしたりする機会はありませんでした。さらにフロアホッケーという競技を通して、同じ目標に向かって何かをやるということなども初めての体験でした。フロアホッケーを通じて一緒に汗を流したり、応援したりするなかで壁がなくなっていき、今は大会などで会った時に話をするのが楽しみになっています。

“社員同士の横のつながり”

フロアホッケー活動がもたらす副産物として社員同士の横のつながりがあります。障がいのある社員との交流もさることながら、普段は接することもない他部署の社員との親交も深まり、普段の業務でも会話がしやすくなりました。



総務人事本部
長塚 幸子

特集

《エフピコ女性社員座談会》
おんな城主のつもりで働いています！



SCM部
口羽 歩

人事部マネージャー
小土井 容子

品質管理部
伊達 友美恵

環境対策室
内海 由美子

エフピコ商事(株)
管理部マネージャー
大内 百合

SCM部
藤井 真弓

中四国営業第2部
渡壁 美穂

製品開発部
島谷 麻子

環境対策室
福満 慶子

エフピコは広島労働局長より『子育てにやさしい企業』として認定されていますが、実際のところ職場での働き易さはどうなのでしょう。9名の女性社員に集まっていただき、忌憚のない意見を語っていただきました。皆さん、少しぶっちゃけ過ぎ！？

全国的にもまだ8%を超え
たばかりですが、エフピコの
女性管理職も数えるほど
しかいません。これは女性
社員の意識の問題もあると
思う。でも焦って無理に増
やすこともないと思います。

他の会社に勤めたことがない
ので何が標準がよく分りま
せんが、ここではみんな結婚し
ても会社を辞めないし、子供
が生まれても育児休暇取得
率が100%という職場なので、
子育てには優しい会社なんだ
と思います。

エフピコの男性社員の多
くは優しく紳士的です
ね。女性に対するハラス
メント的なものは聞いたこ
とがありません。どちらか
と云えば、エフピコは女性
天下？

定時で帰るのはやはり難し
い時があります。自分の責
任としてその日のうちにやっ
ておきたいこともあります。それ
は男女を問わずでしょうけ
ど、お客様はこちらの都合
に合わせてはくれませんし。

地域の子育てサークルに参
加して分かりましたけど、他
の会社と比べるとエフピコ
の女性社員は恵まれてい
るみたいですね。でももっと上
を目指して、もっといい会社
にしていきたい。

部署によっては多くを要求される厳しい職場もあります。これは男女関係なくです。でも同じ厳しさでも女性にとっては男性よりも辛く感じることもあるので、お手柔らかにお願いします。

エフピコは女性社員も普通に意見を言える会社です。言えるだけでなく、言ったことは受けとめて考えてくれます。でも、それは普通のこと？

他の会社もそうかもしれませんが、女性の力活用という意味ではエフピコは今過渡期にあります。昔に比べれば良くなっただけで、まだまだ不十分な面も。もっと良くしていくためには、女性たち自身の積極的な行動が必要だと思います。

営業部の女性社員が少なすぎます。2割程度しかいません。食品関係の業種ですし、女性のほうが向いている気もしますが...

定時は9時始業ですが、フレックスタイムとして8時30分、9時30分、10時の3種類があります。子供の成長に合わせて労働時間を選べるので、そこはありがたいです。

子供が小学校に入るまでは時短で働けますけど、その後に時短がないのでその部分は変えませんか？どんどん改善していきましょう！





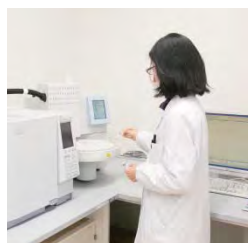
◆◆◆◆◆ 環境への取組み ◆◆◆◆◆



リサイクルに留まらない
全社的な取組み

◆◆◆◆◆ 高い意識で環境保全に取り組んでいます ◆◆◆◆◆

リサイクル事業で得ている評価に甘んじることなく、
事業のあらゆる側面で地球環境保全のためにできることはすべて実践しています。



◆ エフピコ・エコアクション50

改正省エネ法において報告対象となっているエフピコグループの全拠点（工場、配送センター、オフィス）からのCO₂排出量および特定荷主の責任範囲の物流に伴うCO₂排出量の合計を以下のように削減することを目標としています。目標達成のため、「エフピコ・エコアクション50」と題した行動指針を掲げ、グループ全社的な「エコバリューチェーン」の構築を行っています。

CO₂排出量を、2020年度までに
20%削減（2003年度比）

CO₂排出原単位（販売枚数あたり）を、
半減（2003年度比）

グループ全社を挙げての環境負荷の低減を実践するため、エフピコでは会社や部署の垣根を越えて同じテーマに取り組む5つのワーキンググループを組織しています。例えばエフピコ本社のSCM（サプライ・チェーン・マネジメント）部で物流を担当するスタッフと子会社であるエフピコ物流株式会社の配車担当者が物流現場での情報を共有し合う、販売スタッフが生産ワーキンググループに環境対応製品のアイデアを提供するなど、効率化やCO₂削減に向けての施策を策定・実践しています。



各ワーキンググループの具体的な取組み状況の詳細と環境負荷の全体像につきましては、ホームページに掲載しています。

◆ 製品ワーキンググループ



CO₂の排出という点から見れば、製品ワーキンググループ（WG）が担当する製品の素材に関わる分野が最も深くCO₂排出に関係しています。ひとつの製品から排出されるCO₂を100%とすると、素材製造の工程において約50%ものCO₂が排出されることになっています。

● 製品のライフサイクルアセスメント

製品WGではライフサイクルアセスメント（LCA）の手法を用いて環境負荷の見える化を行い、環境負荷数値の算定を実施しています。この数値はすべてのWGに共有され、各WGが策定する施策のベースとなっています。

● 環境対応素材の開発

製品の素材製造工程の次に多くCO₂を排出するのは、使用済み容器の廃棄工程であり、それは排出量全体の約30%となっています。素材の製造と製品の廃棄でCO₂排出量全体の約80%になりますが、一度使用した素材をリサイクルして再び製品製造に使用できれば、CO₂の大幅な削減を実現することができます。そこでリサイクル可能な環境対応素材の開発は製品WGにとって非常に重要なタスクとなっており、長年にわたり製造している「エコトレー」（リサイクル発泡トレー）と「エコAPET」（リサイクル透明容器）の改良・改善の努力を継続しています。

● 製品素材の軽量化・薄肉化

ひとつの製品を製造する際の素材の量を限りなく少なくするための努力として、製品WGでは製品の軽量化・薄肉化を行っています。発泡製品の素材の発泡倍率を上げることにより気泡を多く含ませることで製品を軽量化したり、より薄い素材を使用するなどしています。そして、こうした施策を行うことで製品の強度や機能が低下しないよう、形状のデザインや製造技術の工夫と開発が進められています。

● グリーン調達

地球環境保全への取組みを目的に、安全で環境負荷の少ない原材料、部品、製品を積極的に調達しています。環境に配慮した原料メーカーからの優先購入やISO 14001認証取得を条件とすることを調達先企業に求めています。

◆ 生産ワーキンググループ



生産工場内の動力である電気の使用量をいかに削減するかということが、生産ワーキンググループでは一番の課題です。そのための施策を工場全体のマネジメントという大きな視点と端材の有効利用などの枝葉の部分も併せて総合的に考えています。

● 生産工場における品質マネジメント

品質マネジメントの国際規格である「ISO9001」の認証を3つの工場を取得しており、PDCA方式のマネジメントによる工場内での業務の効率化を実践し、環境負荷の低減へと繋げています。

● エネルギーの見える化による生産施設の省資源化

生産工場を動かしているユーティリティ（主に電力）を効率的に使用するため、エネルギー負荷の定点計測を行い、得られたデータを分析することによってエネルギーを効率的に使用する可能性を常に追求しています。また必要に応じて、設備や機器の保守とリニューアルを随時行っています。

● 「ものづくりプロジェクト」による作業の効率化

生産工場のスタッフが中心となって生産性の向上を目的とした「ものづくりプロジェクト」を実施しています。年に2回全国の工場スタッフが集まり、業務の効率化に関する成果発表会を行います。こうして全国の工場で共有されたアイデアや施策により、無駄の削減や省エネにも繋がる成果が表れています。

● 工場内リサイクル

エフピコでは生産工場から排出される端材、製品や使用済み容器の梱包材なども可能な限りリサイクルしています。製品の製造過程で生じる端材に特化した「ペレット省エネプロジェクト」というサブワーキンググループもあります。

◆ 物流ワーキンググループ



物流におけるCO₂削減はいかにして効率的にものを運ぶかです。走行距離を減らすこと、効率良く荷物を積むことなどの他に、物流ワーキンググループでは他部署との連携によりさまざまな施策を考案しています。

● SCMとの連携

エフピコの物流計画の一部は生産の計画に併せてサプライ・チェーン・マネジメントシステム（SCM）により立案されます。製品の横持ち（倉庫間での製品の融通）や生産の上で必要な金型の移動など物流にかかわるCO₂の排出も最小限に留められ、環境負荷低減の管理がなされています。

● 物流改善発表会

全国の配送センターの現場から代表者が集まり、テレビ会議システムも活用して数百名の参加者による物流改善発表会を定期的に開催しています。発表の内容は業務手順の見直し、残業時間の削減、労働環境の改善など物流の現場におけるさまざまな改善の取組みです。これらは業務の効率を向上させ、環境負荷低減に繋がっています。

● ルートプランナーとR・Dチェックシステム

P.21で紹介した「ルートプランナー」と「R・Dチェックシステム」は配送の効率化と可視化を行います。結果としてCO₂の排出量が削減されるだけでなく、さらなる効率化への施策を講じるためのデータ収集にも繋がっています。

● 環境保全に向けたさまざまな取組み

福山配送センターのクロスドック屋上と関西配送センターの屋上に1,423kWの太陽電池容量のパネルを設置し、年間予測発電電力量は、1,423MWh／年となります。他にもドライバーを対象とした「エコドライブ10カ条」運動の推進、CO₂排出の少ない海上貨物輸送の採用、環境負荷の少ない事業運営の証である「グリーン経営認証」取得などさまざまな施策を実践しています。

◆ 販売ワーキンググループ



販売ワーキンググループによる最大の環境保全活動は、エフピコの環境対応製品であるエコトレとエコAPETを販売することです。使用済み容器を廃棄せずにリサイクルすることは大きなCO₂削減に繋がっています。

● 環境対応製品の積極的な販売

スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの方々に対して環境対応製品をお薦めするために、これらの製品を使用する効果についての説明を続けています。リサイクル表示が目立つエコトレのデザインも作りました。

● 使用済み容器回収地点の強化

使用済み容器の回収率はまだ約30%であり、エフピコとしてはより多くの使用済み容器の回収を目指しています。そのためには、スーパーマーケットなどの方々の協力を得て一個所でも多く回収ボックスを設置することが重要ですが、販売ワーキングがその協力依頼の要となっています。さらには啓発ポスターの掲出などを店舗様に提案して消費者の方々の注意と興味を喚起して回収率を上げるため、営業活動の一部として日々これらの活動に取り組んでいます。

● お客様と消費者の意識喚起のための施策

使用済み容器の回収率アップのための施策として最も効果があるのは、エフピコのリサイクル工場を見学していただくことです。「○○スーパー主催親子エコツアー」などのイベントをスーパー様との協同で開催し、消費者の方々が店頭に持ってきた使用済み容器がリサイクルされている様子を見ていただくことは回収率アップに大きな効果があります。

◆ オフィスワーキンググループ



消耗品の節約などオフィスでの事柄に限られると思われがちなオフィスワーキンググループによる活動ですが、その分野は多岐にわたっており、社員の意識向上という意味では非常に重要な役割を果たしています。

● テレビ会議システム

全国にたくさんの拠点を持つエフピコグループでは、テレビ会議で済ますことのできる打ち合わせなどは極力出張をせずに乗り物を使用しないことでCO₂削減を実践しています。

● 社員向けの環境教育

環境対策室が講師となったり外部の専門家を招聘するなどして環境関連のセミナーを定期的に行っています。また社内イントラネットを使用してのビデオセミナーにも常にアクセスできます。

● 低公害車の導入

電気自動車、ハイブリッド車、低公害車、軽自動車および小型車を積極的に導入しています。

● パソコンのクラウドシステム

グループ会社全体で使用する約2,000台のパソコンをハードディスクを使用しない仮想デスクトップクラウドシステムとしています。これによりパソコンの電気使用量を削減しています。

● エコドライブモニタリング

エコ運転を推進するため、遠隔監視システムによるドライビングモニターを採用しています。

● ペーパーレスの実践

メールでの配信やウェブでの閲覧で支障のない各種書類や帳票はプリントアウトを行わない配慮をしています。



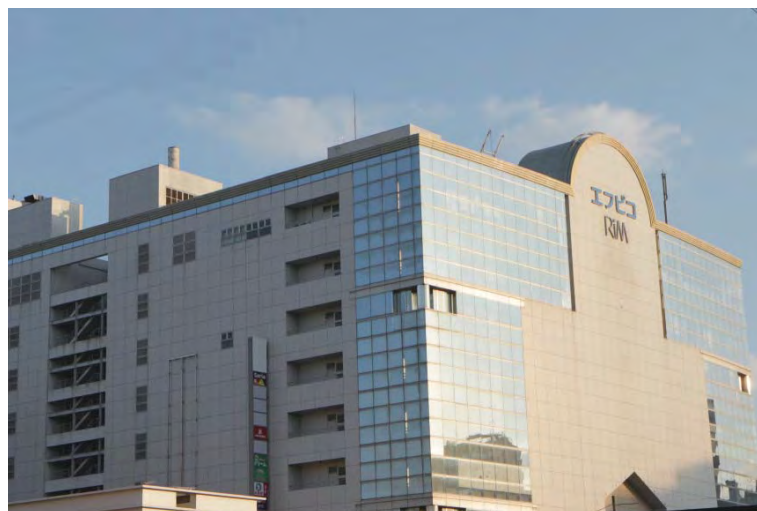
社会とのかかわり



エフピコが発信し、
受けとめているもの

エフピコは常に発信しています

エフピコはいわゆる“BtoB”の企業であり一般消費者の方々との接点は限られています。
であるからこそ私たちの考えや行動を知って欲しいと強く望んでいます。



◆ 消費者とのかかわり

消費者の方々と直接触れ合う機会が少ないエフピコでは、全国各地で開催される環境、ビジネス、ダイバーシティなどをテーマとした展示会や各種イベントに出展したり、スーパーマーケットの店内イベントなどにも参加しています。

エフピコが2016年度に参加した主なイベント

日付	イベント名	開催地	主催
2016年4月9日～12日	G7外相会合展示	広島県	広島市
2016年5月14日～15日	福山ばら祭2016	広島県	福山市
2016年6月4日	2016八王子環境フェスティバル	東京都	八王子市
2016年6月4日	平成28年度「環境の日」ひろしま大会	広島県	「環境の日」ひろしま大会実行委員会
2016年6月5日	エコライフ・フェア2016	東京都	環境省
2016年6月18日	福マチキッズアススペシャル	広島県	福山市
2016年7月23日	ひがしひろしま環境フェア2016	広島県	東広島市
2016年9月10日	よなご環境フェスタ2016	鳥取県	米子市
2016年9月11日	安来市環境フェア2016	島根県	安来市
2016年9月18日	エコ緑日2016	大阪府	イー・ピーイング
2016年9月24日	サイエンスフェスティバル2016	広島県	福山市立大学
2016年10月9日	ふくやま環境フェスタ2016	広島県	福山市環境政策課
2016年10月12日～14日	エコテクノ2016	福岡県	北九州市
2016年10月15～16日	ながさきエコライフフェスタ2016	長崎県	長崎市環境政策課
2016年11月5日	ECOフェスタ古河2016	茨城県	古河市
2016年11月20日	山形環境展2016	山形県	山形市
2016年11月19日～20日	じばさんフェア2016	広島県	地場産業振興センター
2017年2月18日～19日	第44回一宮市消費生活フェア	愛知県	一宮市



◆ 地域とのかかわり

福山本社のある広島地域での活動が最も多いですが、全国の拠点において各地域の方々とコミュニケーションを深めています。

● インターンシップなど学生の受け入れ

理工学系の学生を対象とした「広島県ものづくりインターンシップ事業」、中学生が対象の「チャレンジウィークふくやま」などに受け入れ企業として参加し、さまざまな職業体験をしていただいています。

● 出張講座

全国の小学校等で環境保全全般に関する話やエフピコのリサイクルを紹介する出張講座を行っています。

● 教員研修の受け入れ

広島県教育委員会が実施する「民間企業等長期派遣研修」の受け入れ企業として教職員の方々と約半年にわたり共に働いています。

● エフピコRiM

福山駅近くの商業施設の命名権を取得し、「エフピコRiM」という名で地元の皆さんに親しまれています。

● 地域社会活動への参加

自然保護活動、各地域での清掃活動、拠点のある地域のお祭りや各種イベントなどに参加しています。

TOPICS | 福山市への寄附受納式

福山市市制施行100周年の節目に、福山市名誉市民ともなった会長の小松安弘が福山市へ10億円を寄附するにあたり、2016年7月12日福山市役所において寄附受納式が行われました。寄附は「福山市の未来を担う若者の人材育成を支援したい」という小松の思いから、福山市立大学の施設充実に使われます。



◆ 株主とのかかわり

企業情報の適切な開示

エフピコは常に適時・適正・迅速・公平に企業情報を開示しています。有価証券報告書・決算短信・決算説明会資料・プレスリリースなどはホームページのIR コーナーで開示しています。また、機関投資家やアナリストに対しては、株主総会や年2回の決算説明会以外にも、個別ミーティングや生産・物流・リサイクル施設見学会などを実施し、業績や事業内容をより理解していただけるよう努めています。

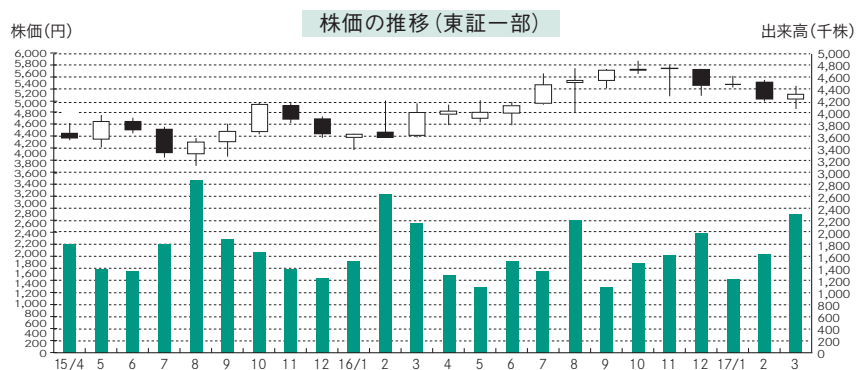
 <http://www.fpco.jp/ir/>

- ・業績ハイライト
- ・IR資料
- ・プレスリリース
- ・アナリスト説明会
(ビデオ映像等)
- ・株主総会のご報告
- ・株式情報
- ・電子公告



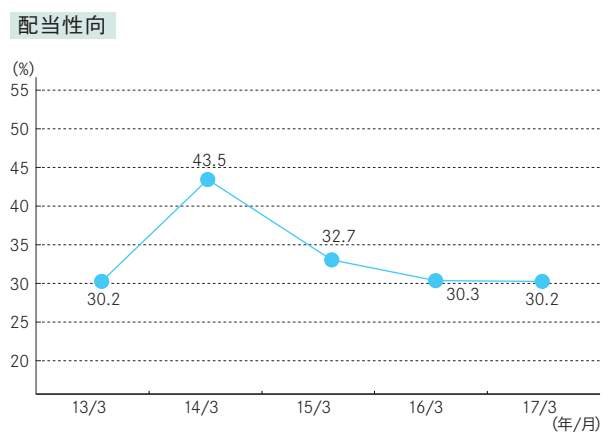
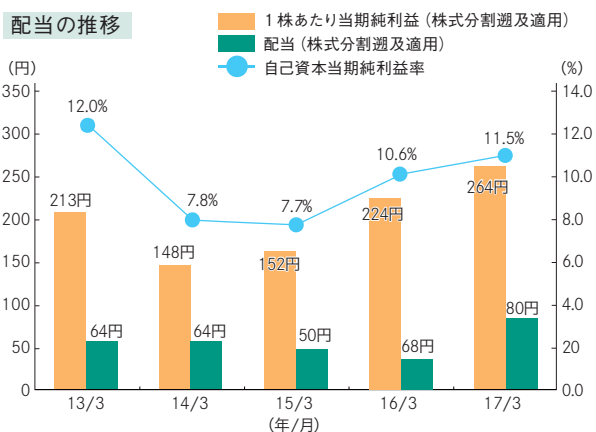
企業価値の拡大

「もっとも高品質な製品」を「どこよりも競争力のある価格」で「必要な時に確実にお届けする」という3つの基本方針に則り、株主本位の経営を実践しています。グループ経営の諸施策を着実に実行することにより、企業価値を高め、1株当たり当期純利益330円を目標としています。



継続的に安定した配当

エフピコは、株主の皆さまへの利益に見合った利益還元を最重要課題のひとつと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図りながら、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを基本方針としています。このような方針のもと、当事業年度は1株当たり80円(うち第2四半期末配当金40円)の配当を実施しました。なお、平成26年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。



◆ 第三者によるコメント



浅利 美鈴様 京都大学地球環境学堂准教授

この半年の間に、福山と中部の2大拠点を伺う機会を得た。印象的だったことのひとつが、どこでもすがすがしい挨拶が待っていること。工場の中でも、作業の最中でも、作業に影響しないよう決められた形で、しかしわざとらしくなく。当たり前と思われるかもしれないが、なかなかこれが難しい。

私がエフピコさんと出会ったのは京都大学における環境系就活（エコ～るど京大「働く」企画）である。こんな会社に入れたら、自社に愛と誇りを、お客さんに感謝の気持ちを持って働くことができるだろうなあと、挨拶だけで思わせてしまう気持ちよさだった。

もちろん、挨拶だけではなく、その事業内容もすばらしいのだが、私がここで改めて書くまでもないだろう。と、こうなると非の打ち所がない会社として賛辞のみ述べて筆をおくことになるが、それではせっかくの機会がもったいない。何か絞りだせないかと考えた。

私は「ごみ」の研究を続けて約20年になる。ごみを見て触れて、どうすれば減らせるか、活かせるかと考えてきた時間は長い方だと思う。最終的には物の作り方や使い手の意識・行動が変わらなければ何も変わらないのだが、そのきっかけを投じたいと、「ごみ」の側から声をあげている。そんな私から見ると、エフピコさんは宝島のようなところだ。なぜなら、小売事業者、消費者、行政等々、様々な関係者と一緒に一つの循環システムを形成しておられ、「ごみ」からの声のネタも豊富、その声を届ける相手とも直接つながっておられるからだ。是非その宝を活かし、一緒に、徐々に大きめの声を上げて頂ければありがたい。



井上 健雄様 NPO法人イー・ピーイング理事長

環境問題への解は、ウィキッド・プロブレム（厄介な問題）と呼ばれ、本質的な解が見えないとされている。地球環境を破壊や汚染する原因が複雑に絡みあっていて、何をしても新しい問題が出てくるという訳だ。

こうした時、「企業として、どうありたいかという強い意思」こそが重要である。かつてトレーは、消費者運動の高まりの中、不買・不使用の危機にあった。その時、エフピコさんは、「トレーの回収・リサイクル」という途轍もない意思を示された。

この意思を支える為に、「一企業で、リサイクルという壮大なPDCAの仕組みを創り」出し、「社会、消費者もその意思をリスペクトし、トレーを洗い、店頭回収に協力する」という新たな社会システムを創造したのである。本レポートのなかに登場する4者一体のリサイクルシステムというものだ。これは環境問題に対するひとつの解を創造したとも言えるであろう。

意思を英断とさせたのは、企業と社会のコラボレーションにあった。

消費者の方々を中心に社会との深いダイアログにより、さらなる新機軸の芽を探って欲しい。ゼロから壮大なトレーリサイクル・システムを産み出したエフピコさんに新たな枠組みによるバリュー・クリエーション（価値創造）を求めることは、決して不遜とは思わないのである。

慶應義塾大学法学部法律学科卒業後、流通業店長、営業企画、環境部長、ISO14001環境管理責任者等を歴任。
・NPO法人イー・ピーイング理事長
・滋賀県立大学 非常勤講師（環境監査総論）他多数の教育機関で講師を務める。
・各種環境関連団体を主宰している。

■ 財務データ

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,089	18,151
受取手形及び売掛金	35,628	32,421
商品及び製品	15,686	15,857
仕掛品	76	118
原材料及び貯蔵品	2,849	3,159
繰延税金資産	1,649	1,687
未収入金	2,766	2,338
その他	439	501
貸倒引当金	△29	△28
流動資産合計	74,154	74,208
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	108,219	114,713
減価償却累計額	△48,267	△51,463
建物及び構築物(純額)	59,951	63,249
機械装置及び運搬具	41,926	50,909
減価償却累計額	△25,990	△28,018
機械装置及び運搬具(純額)	15,935	22,891
土地	33,502	33,371
リース資産	23,010	19,291
減価償却累計額	△12,384	△10,684
リース資産(純額)	10,626	8,607
建設仮勘定	2,237	3,282
その他	18,850	19,832
減価償却累計額	△14,344	△15,101
その他(純額)	4,505	4,731
有形固定資産合計	126,759	136,134
無形固定資産		
のれん	1,232	1,350
その他	1,057	979
無形固定資産合計	2,290	2,330
投資その他の資産		
投資有価証券	3,522	4,272
繰延税金資産	1,212	1,362
その他	1,169	1,228
貸倒引当金	△55	△54
投資その他の資産合計	5,849	6,808
固定資産合計	134,898	145,273
資産合計	209,053	219,481

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,472	18,936
短期借入金	13,803	20,587
コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000
リース債務	3,531	3,046
未払金	10,182	6,865
未払法人税等	3,220	2,758
未払消費税等	1,022	763
賞与引当金	1,805	1,987
役員賞与引当金	71	91
その他	2,920	3,014
流動負債合計	70,029	73,051
固定負債		
長期借入金	35,106	35,702
リース債務	7,878	6,214
繰延税金負債	44	45
役員退職慰労引当金	1,210	1,415
執行役員退職慰労引当金	14	24
退職給付に係る負債	2,993	3,094
その他	184	211
固定負債合計	47,432	46,707
負債合計	117,462	119,759
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,150	13,150
資本剰余金	15,843	15,860
利益剰余金	66,453	74,304
自己株式	△4,942	△5,092
株主資本合計	90,505	98,223
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	919	1,317
退職給付に係る調整累計額	△249	△178
その他の包括利益累計額合計	669	1,138
非支配株主持分	416	359
純資産合計	91,591	99,721
負債純資産合計	209,053	219,481

連結損益計算書及び連結包括利益計算書 (連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
売上高	170,292	172,858
売上原価	117,420	115,635
売上総利益	52,872	57,222
販売費及び一般管理費	39,624	42,046
営業利益	13,248	15,176
営業外収益		
受取利息	3	1
受取配当金	82	95
補助金収入	544	255
受取賃貸料	75	73
スクラップ売却益	173	133
その他	304	332
営業外収益合計	1,183	892
営業外費用		
支払利息	249	179
その他	155	146
営業外費用合計	404	326
経常利益	14,027	15,742
特別利益		
固定資産売却益	—	184
特別利益合計	—	184
特別損失		
固定資産除売却損	254	222
減損損失	—	113
ゴルフ会員権評価損	19	—
特別損失合計	273	335
税金等調整前当期純利益	13,753	15,591
法人税、住民税及び事業税	4,729	4,780
法人税等調整額	△291	△159
法人税等合計	4,438	4,620
当期純利益	9,315	10,971
非支配株主に帰属する当期純利益	20	17
親会社株主に帰属する当期純利益	9,294	10,953

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
当期純利益	9,315	10,971
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△368	397
退職給付に係る調整額	△45	71
その他の包括利益合計	△414	469
包括利益	8,900	11,440
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	8,880	11,423
非支配株主に係る包括利益	20	17

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	13,753	15,591
減価償却費	9,526	11,183
減損損失	—	113
賞与引当金の増減額(△は減少)	240	160
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	26	20
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3	△7
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	4	83
執行役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	7	9
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	277	100
固定資産除売却損益(△は益)	244	34
受取利息及び受取配当金	△85	△97
支払利息	249	179
ゴルフ会員権評価損	19	—
売上債権の増減額(△は増加)	△2,752	3,296
たな卸資産の増減額(△は増加)	3,058	△452
未収入金の増減額(△は増加)	1,117	455
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,691	226
その他の資産・負債の増減額	363	346
未払消費税等の増減額(△は減少)	431	△288
その他	442	431
小計	24,236	31,390
利息及び配当金の受取額	85	97
利息の支払額	△247	△180
法人税等の支払額	△3,241	△5,394
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,832	25,912
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△17,657	△22,557
有形固定資産の売却による収入	22	745
無形固定資産の取得による支出	△340	△247
投資有価証券の取得による支出	△25	△35
投資有価証券の売却による収入	8	0
長期貸付けによる支出	△39	△29
長期貸付金の回収による収入	31	34
その他	77	157
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,923	△21,932
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	400	△1,886
長期借入れによる収入	15,000	21,500
長期借入金の返済による支出	△10,277	△13,549
自己株式の取得による支出	△0	△0
リース債務の返済による支出	△4,208	△3,829
配当金の支払額	△2,444	△3,102
その他	—	△56
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,530	△924
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,379	3,054
現金及び現金同等物の期首残高	13,710	15,089
現金及び現金同等物の期末残高	15,089	18,144

■ 財務データ

連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,150	15,843	59,600	△4,941	83,653
当期変動額					
剰余金の配当			△2,442		△2,442
親会社株主に帰属する当期純利益			9,294		9,294
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	6,852	△0	6,851
当期末残高	13,150	15,843	66,453	△4,942	90,505

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,288	△204	1,084	395	85,133
当期変動額					
剰余金の配当					△2,442
親会社株主に帰属する当期純利益					9,294
自己株式の取得					△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△368	△45	△414	20	△394
当期変動額合計	△368	△45	△414	20	6,457
当期末残高	919	△249	669	416	91,591

当連結会計年度(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,150	15,843	66,453	△4,942	90,505
当期変動額					
剰余金の配当			△3,102		△3,102
親会社株主に帰属する当期純利益			10,953		10,953
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		0		0	0
連結子会社株式の取得による持分の増減		16		△149	△133
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	16	7,851	△150	7,718
当期末残高	13,150	15,860	74,304	△5,092	98,223

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	919	△249	669	416	91,591
当期変動額					
剰余金の配当					△3,102
親会社株主に帰属する当期純利益					10,953
自己株式の取得					△0
自己株式の処分					0
連結子会社株式の取得による持分の増減					△133
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	397	71	469	△56	412
当期変動額合計	397	71	469	△56	8,130
当期末残高	1,317	△178	1,138	359	99,721

エフピコのあゆみ

沿革・表彰

1962	7月	福山パール紙工(株)設立。広島県福山市古宮町(現在の霞町)に福山本社を設置し、PSP成形加工を開始
1968	3月	業容発展に伴い、福山本社を現在地(福山市曙町)に移転
1971	1月	ウッド組立食品容器の製造を開始
1972	4月	福山配送センター(広島県福山市)を開設
1975	9月	総合包装用品販売のチェーン店「モダンバック」を福山市に設立
1976	6月	自社製品の展示会「パールフェア(現エフピコフェア)」第1回目を開催
1979	7月	配送体制強化のためエフピコ物流(株)を設立
1980	1月	物流の合理化、効率化のため福山第一配送センターを開設。このころからトレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する
1981	6月	食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始
1982	3月	高級食品容器製造のため、定位置成形技術を開発
1983	4月	東京支店(東京都練馬区)を開設
1984	5月	代表取締役社長(当時)小松安弘がPSP成形加工工業組合理事長に就任
1985	1月	東京配送センター(千葉県船橋市)を開設
	2月	総合展示会「パールフェア」を初めて東京で開催
		大阪支店(大阪府大阪市)を開設 2013年5月、現所在地(大阪市北区中之島)に移転
	6月	総合展示会「パールフェア」を初めて大阪で開催
	11月	関東工場(茨城県八千代町)稼働
1987	1月	ソリッド食品容器の原反生産から成形加工までの一貫生産を開始
	4月	100%出資の子会社エフピー商事(株)(現エフピコ商事(株))を設立
	9月	大幅な省人化を果たす笠岡工場(岡山県)を竣工
	12月	フロンガスを使用したPSPを全廃
1988	3月	関東配送センター(茨城県猿島町)を開設
	12月	ワシントンで開かれたFPI(全米食品サービス容器協会)総会に代表取締役社長(当時)小松安弘が出席し、地球環境問題などについて演説を行う
1989	1月	CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める
	7月	中部配送センター(岐阜県輪之内町)を開設
	11月	広島証券取引所に株式上場
1990	12月	東北配送センター(宮城県大衡村)を開設
1991	2月	大阪証券取引所市場第二部に株式上場
	4月	バルティーズ研究会「会員部門最高得点票賞」受賞
1992	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて東北リサイクル工場が『平成4年度リサイクル推進功労者賞』受賞
1993	3月	「クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて「クリーン・ジャパン・センター会長賞」受賞
1994	10月	関西配送センター(兵庫県西宮市)を開設
1995	4月	物流業務全般をエフピコ物流(株)に移管
1996	4月	第22回「エフピコフェア96」を東京で初開催
	5月	大阪支店を大阪府豊中市に移転
	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて中部リサイクル工場が『通商産業大臣賞』受賞
1997	3月	「クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて「通商産業省環境立地局長賞」受賞
	5月	代表取締役社長(当時)小松安弘が『藍綬褒章』を受章
	6月	福山リサイクル工場が『ひろしま環境賞』受賞
	9月	社団法人大垣青年会議所主催「西美濃共創アワード'97」にて『こんな会社を誇りにしま賞』受賞
	10月	日本食糧新聞主催『第6回日食環境資源協力賞』受賞
1997	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて福山リサイクル工場が『リサイクル推進協議会会長賞』受賞
	12月	新素材容器「エクスター」を開発し、一貫生産のため福山工場(広島県福山市)を竣工
1998	10月	福山配送センターに新倉庫竣工
1999	2月	代表取締役社長(当時)小松安弘が『第19回毎日経済人賞』を受賞
	4月	エフピコモダンバックにて、カタログ販売を開始
	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて『内閣総理大臣賞』受賞
2000	1月	特例子会社(株)ダックス四国本社工場(高知県南国市)を竣工
	3月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
		関東つくば工場(茨城県下妻市)を稼働開始
	7月	関東下館工場(茨城県筑西市)を稼働開始
	10月	近畿亀岡工場(京都府亀岡市)を稼働開始
2001	7月	「第4回エコライフびわ湖賞」にて『アイディア部門優秀賞』受賞
	11月	東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に
2003	1月	更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の更生計画認可決定(バックドール(株)は2003年5月更生手続終結、中国パール販売(株)は2005年5月更生手続終結)
	7月	東日本ハブセンター(茨城県八千代町)完工
		山形工場(山形県寒河江市)稼働開始
	11月	「ウエステック大賞2003」にて『事業活動部門賞』受賞
2004	3月	東日本サンプルセンター(茨城県坂東市)、西日本サンプルセンター(広島県福山市)を開設
	5月	東北配送センターを山形工場(山形県寒河江市)隣接地へ移転
2005	9月	東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場
		『愛・地球賞(財団法人国際博覧会協会・日本経済新聞社主催)』を受賞
2006	6月	サンプル受付センターを稼働開始
		特例子会社(株)ダックス佐賀(佐賀県吉野ヶ里町)設立
	9月	(株)ダックス四国が独立行政法人高齢・障害者雇用支援理事長賞受賞
	10月	就労継続支援A型子会社を目的とする広島愛バック(株)(現エフピコ愛バック(株))設立
	12月	「財小松育英会」設立
2007	2月	関東下館第2工場(茨城県筑西市)を稼働開始
	3月	就労継続支援A型子会社を目的とする「エフピコ愛バック(株)」設立
	4月	「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて『製品部門最優秀賞』受賞
	8月	エフピコ八千代センターを稼働開始
		エフピコ愛バック(株)佐賀工場(佐賀県神埼市)を稼働開始
		「ものづくり大賞」にて『経済局長賞』受賞
	9月	エフピコ愛バック(株)岐阜工場(岐阜県輪之内町)、茨城工場(茨城県坂東市)を稼働開始
	10月	エフピコ愛バック(株)西宮工場(兵庫県西宮市)、山形工場(山形県寒河江市)を稼働開始
	11月	「財小松奨学財団」設立
	12月	福山本社新社屋(広島県福山市)竣工
2008	2月	退職者の親睦団体である「エフピコ松栄会」設立
	8月	日本経済新聞社と(社)ニューオフィス推進協議会が主催する「第21回日経ニューオフィス推進賞」にて『中国ニューオフィス推進賞』を受賞
2009	3月	第1回ふくやま環境賞『事業所部門』受賞
	5月	西関東ピッキングセンター(東京都町田市)稼働
	6月	大洋興業(株)より包材部門を事業譲受
		代表取締役会長 小松安弘が『第11回企業家賞』を受賞
	8月	(株)茨城ビジョンリサイクルを設立
	10月	(株)富山陽成社より日本パール容器(株)を事業譲受して、エフピコ日本パール(株)を設立
2010	4月	ユカ商事(株)より包装資材等の商品仕入事業を譲受
	6月	(株)アルライト(現エフピコアルライト(株))を連結子会社化
		(株)アイ・ロジック福山ピッキングセンター(広島県福山市)開所
	10月	インターバック(株)(現エフピコインターバック(株))を連結子会社化
	12月	ダイヤフーズ(株)(現エフピコダイヤフーズ(株))を連結子会社化

エフピコのあゆみ

2011	2月	「エコマークアワード2010」にて『金賞』受賞 代表取締役会長 小松安弘が『第9回渋沢栄一賞』受賞
	5月	アイ・ロジック中部ピッキングセンター(岐阜県輪之内町)を竣工
	9月	エフピコ愛バック(株)広島工場が(独)高齢・障害者雇用支援機構より「優秀労働者」部門で表彰受賞
	12月	(株)エフピコ及びエフピコ物流(株)がエコシップ・モーダルシフト優良事業者として「国土交通省海事局長賞」を受賞
2012	11月	PET容器では世界で初となるPET2軸延伸製品を上市
2013	3月	「ワットセンスアワード」にて『アクション部門優秀賞』受賞
	4月	持分法非適用関連会社の(株)石田商店(現エフピコイシダ(株))を連結子会社化 商業ビル『エフピコRIM』のネーミングライツを取得
	7月	九州第2配送センター稼働(佐賀県神埼市)
	10月	関西第1配送センター稼働(兵庫県神戸市)
	11月	代表取締役会長小松安弘が『旭日重光章』を受章
2014	6月	使用済みPETボトルから再生樹脂を生産する西日本ペットボトルリサイクル(株)を連結子会社化
	8月	福山クロスドックセンターを稼働開始(広島県福山市) 日本経済新聞社と(社)ニューオフィス推進協議会が主催する「第27回日経ニューオフィス賞」にて、大阪支店オフィスが「近畿ニューオフィス奨励賞」を受賞
	10月	(株)みやこひも(現エフピコみやこひも(株))を連結子会社化
	11月	八王子配送センターを稼働開始(東京都八王子市)
	12月	エフピコ総合研究所・人材開発研修センター竣工(広島県福山市)
2015	3月	経済産業省より「ダイバーシティ経営企業100選」に選出
	5月	経済産業省と東京証券取引所が選ぶ「攻めのIT銘柄」に選定
	8月	日本経済新聞社と(社)ニューオフィス推進協議会が主催する「第28回日経ニューオフィス賞」にて、エフピコ総合研究所が「中国経済産業局長賞」を受賞
	9月	八王子配送センター 拡張工事完成
	11月	経済産業省主催「第6回ものづくり日本大賞(製品・技術開発部門)」優秀賞受賞
12月	地球温暖化防止活動環境大臣表彰(対策活動実践・普及部門)受賞	
2016	3月	PETボトルリサイクルからエコAPET製造までの一貫生産拠点「中部エコペット工場」稼働 代表取締役会長小松安弘が、「福山市名誉市民」に推戴される
	6月	経済産業省と東京証券取引所が選ぶ「攻めのIT銘柄」に2年連続選出
	1月	社員寮の「Pico House」1号館が茨城県筑西市に完成

環境・リサイクル

1990	9月	エフピコ方式のリサイクルスタート
	12月	笠岡リサイクルセンター稼働開始
1991	10月	関東リサイクルセンター稼働開始 東北リサイクルセンター稼働開始
	11月	エコトレーが業界初のエコマーク認定
1992	3月	エコトレー販売開始
	4月	環境対策室設置
	5月	中部リサイクルセンター稼働開始
	7月	鳥取市が当社と協力して自治体で初めてトレー回収を開始
	9月	九州リサイクルセンター稼働開始
	10月	学校回収スタート、社内のトレー回収スタート

1993	2月	福山リサイクルセンター(広島県福山市)稼働開始
1996	2月	北海道リサイクルセンター(北海道石狩市)稼働開始
	8月	エフピコ物流(株)が「グリーン経営認証」取得
	11月	沼津リサイクルセンター(静岡県沼津市)稼働開始
1998	4月	関東リサイクルセンターにカラートレー自動選別機導入
	7月	工場見学者累計10万人突破
1999	4月	主力3工場(岡山県笠岡工場、広島県福山工場、福山リサイクルセンター)でISO14001 認証取得
2000	5月	エコトレーが第20類で商標登録(第4387266号)
	11月	関東リサイクル第1工場(茨城県八千代町)稼働開始
2001	9月	福山リサイクル工場に透明容器リサイクル専用ライン新設
2003	2月	関東リサイクル第1工場でISO14001 認証取得
	3月	岡山県にて「エコトレー」がエコ製品に認定
	5月	佐賀県にて「エコトレー」がリサイクル製品に認定
	6月	岐阜県にて「エコトレー」がリサイクル製品に認定
	11月	工場見学者 累計20万人突破
2004	3月	広島県にて「エコトレー」がリサイクル製品登録制度に登録
	12月	「トレー to トレー」が第20類・第40類で商標登録(第4322974号)
2005	5月	「エコトレー」が第40類で商標登録(第4864115号)
2006	4月	環境経営5ヵ年計画スタート
2007	10月	屋上緑化対応の工場稼働開始(中部第2工場)
	12月	太陽光発電システムを備えた福山本社新社屋の落成 透明容器の光学式自動素材選別装置稼働開始
2008	8月	茨城選別センター(茨城県八千代町)稼働開始
	10月	西宮選別センター(兵庫県西宮市)、岐阜選別センター(岐阜県輪之内町)稼働開始
2009	1月	福山選別センター(広島県福山市)稼働開始 (株)金沢容器リサイクル(石川県金沢市)を稼働開始
	8月	佐賀選別センター(佐賀県神埼市)稼働開始
	3月	茨城県にて「エコトレー」がエコ製品に認定
2010	4月	東海選別センター(静岡県長泉町)稼働開始
	9月	九州選別センター(佐賀県神埼市)稼働開始
	10月	工場見学者累計30万人突破 山形選別センター(山形県寒河江市)稼働開始 北海道選別センター(北海道石狩市)稼働開始
	12月	中部リサイクル・中部PETリサイクル工場(岐阜県輪之内町)稼働開始
	4月	環境大臣より「エコファースト企業」として認定を受ける
2011	5月	中部リサイクル工場に導入したPETメカニカルプラントがFDA(米国食品医薬品局)-NOLを取得
	10月	「エコトレー」が山形県のリサイクル製品として認定
	12月	再生PET容器「エコAPET」が財団法人環境協会よりエコマーク商品認定を取得
2012	2月	「エコトレー」が北海道のリサイクル製品として認定
	4月	再生PET容器「エコAPET」を上市
	6月	「ボトル to トレー」が第20類・40類で商標登録(第5504851号)
	12月	「エコAPET」が第20類で商標登録(第5543674号)
2013	10月	山形県にて「エコAPET」がリサイクル製品に認定
2014	2月	岡山県にて「エコAPET」がエコ製品に認定
	3月	茨城県にて「エコAPET」がリサイクル製品に認定
	8月	福山クロスドックセンターに太陽光パネル設置
2015	9月	関西第一配送センター 太陽光発電竣工
	12月	工場見学40万人達成



編集後記

福山市は「ばらのまち」として自らをPRしています。毎年5月には100万本のバラが街を彩ることで知られており、中旬に開催される「ばら祭」は市の初夏の風物詩となっています。2017年の「ばら祭」は5月20日と21日に開かれましたが、その2日後の23日、会長の小松安弘が永遠の眠りにつきました。

私たちエフピコグループ社員にとって創業者である小松は父親のような存在でありました。常に先見の明を持ち、会社が進むべき道を照らしてくれる偉大なリーダーでした。昨年福山市の名誉市民にもなった小松は、福山に咲いた大輪のバラの花だったように思います。人の心を惹きつけ、照らし、勇気を与えてくれるような。赤いバラを見るたび、会長が好んでいつも着けていた赤いネクタイを思い出します。小松会長、長い間本当にお疲れ様でした。ゆっくりにとお休みください。

「エフピコレポート2017」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。内容の継続的な改善のためにも、当レポートに添えてありますアンケートに是非ともご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



2017年6月
環境対策室
ジェネラルマネージャー
富樫 英治

エフピコレポート 2017

発行日：2017年6月

編集方針

エフピコらしさを皆さまにご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。

CSRに関わるレポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年度版)」を参考にしました。

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日

対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

制作部門・問い合わせ先 株式会社エフピコ 環境対策室

〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オークタワー(総合受付36階)

TEL 03-5325-7809 FAX 03-5325-7811 E-mail: Env-FP@fpc-net.co.jp ホームページ: <http://www.fpc.jp/>

FPCO Report 2017

To be a company that links
people with people, people with nature,
and companies with society.



福山本社	〒721-8607 広島県福山市曙町1-13-15	TEL (084) 953-1145
東京本社	〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー36F	TEL (03) 5320-0717
大阪支店	〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F	TEL (06) 6441-2468
営業所	札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡	

■ ホームページ <http://www.fpc.jp/> ■ eメール Env-FP@fpc-net.co.jp

